

2023（令和 5）年度

事業報告書

（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）

学校法人 宮城学院

目 次

I. 学校法人の概要.....	- 1 -
1. 基本情報.....	- 1 -
2. 法人の事業目的.....	- 1 -
3. 設置する学校・学部・学科等.....	- 1 -
4. 宮城学院の沿革.....	- 1 -
5. 組織.....	- 3 -
6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数.....	- 4 -
7. 収容定員充足率.....	- 4 -
8. 役員の概要.....	- 5 -
9. 評議員の概要.....	- 7 -
10. 教職員の概要.....	- 9 -
11. 所在地一覧.....	- 10 -
II. 事業の概要.....	- 11 -
1. 学院全体に関わる事業.....	- 11 -
(1) キリスト教に基づく教育.....	- 11 -
(2) 社会貢献.....	- 11 -
(3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備.....	- 11 -
(4) 同窓会との連携.....	- 13 -
(5) その他.....	- 13 -
2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項.....	- 14 -
(1) 大学におけるキリスト教教育諸活動.....	- 14 -
(2) 教育・研究活動の充実.....	- 15 -
(3) 教育内容の充実に向けて.....	- 15 -
(4) 学生支援の充実.....	- 16 -
(5) 学生募集.....	- 19 -
(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む).....	- 19 -
(7) 国際交流.....	- 19 -
(8) 生涯学習.....	- 20 -
(9) 大学院.....	- 20 -
(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携.....	- 21 -
3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項.....	- 21 -
(1) 教育計画全般.....	- 21 -
(2) キリスト教教育活動.....	- 22 -
(3) 学習指導.....	- 22 -
(4) 海外研修・国際交流.....	- 23 -
(5) 生徒会指導、生活指導.....	- 24 -
(6) 進路指導.....	- 24 -
(7) 入試広報.....	- 25 -

(8) スクールバス	- 25 -
(9) その他	- 25 -
4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項	- 25 -
(1) 0～5 歳児の保育	- 25 -
(2) 食育	- 25 -
(3) 子育て支援	- 26 -
(4) 児童クラブ「森の家」	- 26 -
(5) その他	- 26 -
5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項	- 26 -
(1) 教育	- 26 -
(2) 行事	- 27 -
(3) 広報	- 27 -
6. キリスト教センターに関する事項	- 27 -
7. 資料室に関する事項	- 28 -
(1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開	- 28 -
(2) その他	- 28 -
III. 財務の概要	- 30 -
IV. 資料	- 38 -
1. 理事会、評議員会の開催状況	- 38 -
(1) 理事会の開催状況	- 38 -
(2) 常任理事会の開催状況	- 39 -
(3) 評議員会の開催状況	- 43 -
2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等	- 43 -
(1) 法人（理事会・評議員会を除く）	- 43 -
(2) 大学院・大学	- 44 -
(3) 中学校高等学校	- 46 -
(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」	- 47 -
3. 補助金の状況	- 49 -
4. 入学志願者、合格者、入学者数	- 55 -
5. 寮生数	- 55 -
6. 2023 年度就職内定状況	- 56 -

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

法 人 名 学校法人宮城学院
住 所 〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1 番 1 号
電 話 / F A X 番 号 022-279-1311/022-279-4667
ホームページ URL <https://www.mgu.ac.jp/home/>

2. 法人の事業目的

寄附行為第 3 条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、高等学校、中学校、認定こども園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目的としている。

3. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	設置年	学部・学科等
宮城学院女子大学	1949 年	大学院 人文科学研究科 健康栄養学研究科 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 教育学部 教育学科 生活科学部 食品栄養学科 生活文化デザイン学科 学芸学部 英文学科 日本文学科 人間文化学科 音楽科 心理行動科学科
宮城学院高等学校	1948 年	全日制課程 普通科
宮城学院中学校	1947 年	
宮城学院女子大学附属認定こども園 「森のこども園」	2016 年	

4. 宮城学院の沿革

1886 年 押川方義、ウィリアム・E・ホーイが中心となり宮城女学校創立
初代校長にエリザベス・R・プールボー就任
1889 年 東三番丁 162 番地に竣工した新校舎に移転
1900 年 1 年制聖書専攻科設置
1910 年 校旗・校章制定
1911 年 高等女学校に準ずる学校となる
1912 年 3 年制家政専攻科設置
1913 年 3 年制英文専攻科設置
1914 年 理事会組織の発足と寄附行為（the Constitution）の制定
1916 年 3 年制音楽専攻科設置、2 年制聖書専攻科設置

1931 年	音楽科に師範科及び研究科を設置
1941 年	財団法人宮城女学校設立
1943 年	宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称
1946 年	学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校設置（育児科、国語科、外国（英）語科、音楽科）
1947 年	新学制により宮城学院中学校設置
1948 年	新学制により宮城学院高等学校設置
1949 年	宮城学院女子大学設置（学芸学部英文学科、音楽科）
1950 年	宮城学院女子短期大学設置（家政科、国文科）
1951 年	学校法人宮城学院設立認可
1955 年	宮城学院女子短期大学保育科設置
1956 年	宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置
1959 年	大学学芸学部家政学科を設置
1964 年	大学学芸学部日本文学科、短期大学に教養科を設置
1980 年	東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転
1986 年	創立 100 周年
1988 年	短期大学に国際文化科を設置
1995 年	大学学芸学部人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置（英語・英米文学専攻、日本語・日本文学専攻）
1999 年	大学院人文科学研究科人間文化学専攻を設置
2000 年	大学学芸学部食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置
2001 年	宮城学院女子短期大学廃止
2005 年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻を設置
2006 年	創立 120 周年（礼拝堂増築） 高校コース制導入
2007 年	大学学芸学部心理行動科学科、児童教育学科を設置
2008 年	大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
2009 年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザイン学科に変更
2016 年	創立 130 周年 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科、生活科学部食品栄養学科、生活文化デザイン学科設置 大学附属幼稚園廃止 大学附属認定こども園「森のこども園」設置
2019 年	大学設置 70 周年 大学学芸学部児童教育学科廃止
2020 年	大学学芸学部発達臨床学科廃止
2021 年	大学学芸学部食品栄養学科廃止 大学学芸学部生活文化デザイン学科廃止
2022 年	大学学芸学部国際文化学科廃止

学校法人宮城学院



6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2023 年 5 月 1 日現在)

				入学	学生・生徒・園児数					収容	定員比
				定員	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	定員	
大 学 院	修 士 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	1	-			1	8	0.13
			日本語・日本文学専攻	4	1	2			3	8	0.38
			人間文化学専攻	4	3	1			4	8	0.50
			生活文化デザイン学専攻	4	-	-			0	8	0.00
		健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	1	4			5	8	0.63
大学院合計				20	6	7			13	40	0.33
大 学	現代ビジネス学部		現代ビジネス学科	95	107	104	94	121	426	380	1.12
	教育学部	教育学科幼児教育専攻		90	80	102	93	91	366	360	1.02
		教育学科児童教育専攻		50	42	60	56	65	223	200	1.12
		教育学科健康教育専攻		30	50	43	35	34	162	120	1.35
	生活科学部	食品栄養学科		100	107	111	103	108	429	400	1.07
		生活文化デザイン学科		60	71	55	59	77	262	240	1.09
	学芸学部	日本文学科		100	110	91	97	110	408	400	1.02
		英文学科		70	43	55	64	78	240	280	0.86
		人間文化学科		70	35	51	59	76	221	280	0.79
		心理行動科学科		60	85	81	73	66	305	240	1.27
		音楽科		25	15	12	18	17	62	100	0.62
大学合計				750	745	765	751	843	3104	3000	1.03
大学院・大学合計				770	751	772	751	843	3117	3040	1.03
高等学校				260	104	117	103		324	780	0.42
中学校				160	41	39	50		130	480	0.27
認定こども園				定員	未満児	3 歳	4 歳	5 歳	118	120	0.98
				120	29	28	31	30			
総 合 計					925	956	935	873	3689	4420	0.83

7. 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
大学院	0.38	0.33	0.25	0.30	0.33
大学	1.02	1.09	1.08	1.08	1.03
高等学校	0.47	0.48	0.47	0.44	0.42
中学校	0.35	0.36	0.34	0.30	0.27
認定こども園	0.96	1.08	1.08	1.07	0.98

8. 役員の概要

定数 理事 15～17 名、監事 2 名（2024 年 3 月 31 日現在）

理事監事	氏 名	選任条項	就任年月日	勤務形態	主な現職等
理事長	さ さ き てつ お 夫 佐々木 哲 夫	7-3 理事長 8-1-1 学院長	2022 年 11 月 28 日 2022 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院 理事長・学院長
理 事	は せ べ ひろし 長谷部 弘	8-1-2 学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 学長
理 事	ひら ばやし けん 平 林 健	8-1-3 校長	2016 年 7 月 19 日	常勤	宮城学院中学校高 等学校校長
理 事	おお うち ふみ 大 内 典	8-1-4 副学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理 事	ふか さわ まさ お 夫 深 澤 昌 夫	8-1-4 副学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理 事	ほん だ たつ お 雄 本 田 辰 雄	8-1-5 事務局長 細則第 10 条 常務理事	2013 年 4 月 1 日 2022 年 12 月 13 日	常勤	宮城学院 事務局長・常務理事
理 事	えん どう じゅん こ 子 遠 藤 純 子	8-1-6 教職員評 議員	2022 年 11 月 28 日	常勤	宮城学院中学校高 等学校教頭
理 事	いろ かわ さち こ 子 色 川 幸 子	8-1-7 同窓会会 長	2023 年 6 月 1 日	非常勤	
理 事	せ や ひろし 瀬 谷 寛	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	日本基督教団 東一番丁教会牧師
理 事	さ く ま けい こ 子 佐久間 敬 子	8-1-8 学識経験 者	2010 年 11 月 28 日	非常勤	弁護士
理 事	おお いずみ かず ぬき 大 泉 一 貫	8-1-8 学識経験 者	2013 年 11 月 28 日	非常勤	
理 事	ま にわ ひろし 間 庭 洋	8-1-8 学識経験 者	2019 年 11 月 28 日	非常勤	仙台商工会議所 参与
理 事	ふじ さわ とも こ 子 藤 沢 智 子	8-1-8 学識経験 者	2020 年 5 月 26 日	非常勤	tbc Az(株) 代表取締役社長
理 事	で むら みやこ 出 村 みや子	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	東北学院大学 教授
理 事	さ とう かつ ひろ 佐 藤 勝 博	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	
理 事	すず き かず ひこ 鈴 木 和 彦	8-1-9 評議員	2023 年 5 月 23 日	非常勤	
理 事	なか もと じゅん 中 本 純	8-1-9 評議員	2022 年 11 月 28 日	非常勤	日本基督教団 東六番丁教会牧師
監 事	ほ さか よし お 男 保 坂 和 男	9	2013 年 11 月 28 日	非常勤	
監 事	たけ だ まさ ひ と 武 田 雅 比 人	9	2010 年 11 月 28 日	非常勤	公認会計士

責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約について

責任の免除

寄附行為第 22 条において、役員の責任の免除を次のとおり規定しています。

第 22 条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

責任限定契約

寄附行為第 23 条において、役員の責任限定契約を次のとおり規定しています。本学院では本寄附行為に基づき、非業務執行理事及び監事に対しては、責任限定契約を締結しています。

第 23 条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又は本法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

補償契約

本学院では、役員の職務執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を学校法人が役員に対して補償する契約、いわゆる「補償契約」を結んでいます。

役員賠償責任保険契約

本学院では、役員の職務執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を填補する責任保険契約で学校法人が保険者との間で役員を被保険者として締結するものいわゆる「役員賠償責任保険契約」を結んでいます。

< 契約内容 >

契約当事者：学校法人宮城学院、東京海上日動火災保険㈱

保険期間：2023 年 4 月 1 日午後 4 時から 2024 年 4 月 1 日午後 4 時まで

被保険者（補償の対象となる者）の範囲：

【個人被保険者】役員（理事、監事）、退任役員

【記名法人】学校法人宮城学院

補償内容：役員としての業務の遂行に起因して、保険期間中に損害賠償がなされたことによって被る損害を、保険期間中の総支払限度額の範囲内で支払う保険。

支払限度額：15 億円。

9. 評議員の概要

定数 31～35 名（2024 年 3 月 31 日現在）

氏 名	選任条項	就任年月日	主な現職等
さ さ き てつ お 佐々木 哲 夫	28-1-1 学院長	2022 年 4 月 1 日	（閉）宮城学院 学院長
は せ べ ひろし 長谷部 弘	28-1-1 学長	2023 年 4 月 1 日	宮城学院女子大学 学長
ひら ばやし けん 平 林 健	28-1-1 校長	2009 年 10 月 6 日	宮城学院中学校高等学校 校長
ほん だ たつ お 本 田 辰 雄	28-1-1 事務局長	2013 年 4 月 1 日	（閉）宮城学院 事務局長
まさ き きょう すけ 正 木 恭 介	28-1-1 教職員	2023 年 7 月 25 日	宮城学院女子大学 教授
おお うち ふみ 大 内 典	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 教授
ふか さわ まさ お 深 澤 昌 夫	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 教授
み とも あ き こ 三 友 安紀子	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 副手
おお ぐ ぼ なお き 大久保 直 樹	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 宗教主事
まる やま ひとし 丸 山 仁	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 教頭
えん どう じゅん こ 遠 藤 純 子	28-1-1 教職員	2021 年 5 月 25 日	宮城学院中学校高等学校 教頭
さくら い ゆ み 桜 井 由 美	28-1-1 教職員	2019 年 5 月 28 日	宮城学院女子大学 大学事務部教務課長
わた べ しんたろう 渡 部 伸太郎	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 事務長
やま ぐち かつ や 山 口 勝 也	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	（閉）宮城学院 財務施設部長
いろ かわ さち こ 色 川 幸 子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
いわ い ふ み え 岩 井 富美枝	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	稲の花（株） 取締役
うつ み さち こ 内 海 祥 子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
の がわ たく こ 野 川 卓 子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
ど もん ひ ろ こ 土 門 比呂子	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	
か の みちこ 鹿 野 みち子	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	

なが い しょう こ 長 井 祥 子	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	
お の しず え 小 野 静 江	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	
ふく しま すみ お 福 島 純 雄	28-1-3 教職者	2022 年 11 月 4 日	日本基督教団 福島教会牧師
ひら か ま り こ 平 賀 真理子	28-1-3 教職者	2022 年 11 月 4 日	日本基督教団 岩沼教会牧師
なか もと じゅん 中 本 純	28-1-3 教職者	2022 年 11 月 4 日	日本基督教団 仙台東六番丁教会牧師
すが わら ひろ のり 菅 原 裕 典	28-1-4 学識経験者	2010 年 11 月 4 日	(株)清月記 代表取締役
さ とう ひろ み 佐 藤 博 美	28-1-4 学識経験者	2013 年 11 月 4 日	東通インテグレート(株) 代表取締役社長
ねり う か わ まさ し 練生川 雅 志	28-1-4 学識経験者	2021 年 5 月 25 日	(株)河北新報社 専務取締役
たか はし ひろし 高 橋 博	28-1-4 学識経験者	2019 年 11 月 4 日	(株)仙台銀行 相談役
くり た とし みつ 栗 田 敏 光	28-1-4 学識経験者	2019 年 11 月 4 日	(株)アパートナー 副会長
きく ち いさ お 菊 池 勇 夫	28-1-4 学識経験者	2020 年 5 月 26 日	
さい とう きみ こ 齋 藤 公 子	28-1-4 学識経験者	2023 年 5 月 9 日	宮城県教育委員
おお いずみ ま り 大 泉 真 理	28-1-4 学識経験者	2022 年 11 月 4 日	
しろ き えつ こ 白 木 悦 子	28-1-4 学識経験者	2022 年 11 月 4 日	
すず き かず ひこ 鈴 木 和 彦	28-1-4 学識経験者	2022 年 11 月 4 日	

10. 教職員の概要

教職員数

(2023年5月1日現在)

区分		教育職員	教務職員※ ¹¹	事務職員	合計
法人	本務			10 ※ ¹	10
	兼務			1	1
大学	本務	109 ※ ²	27 ※ ³	44 ※ ⁴	180
	兼務	318	12	8	338
高等学校	本務	32 ※ ⁵		2	34
	兼務	20		3	23
中学校	本務	17 ※ ⁶	1 ※ ⁷	2 ※ ⁸	20
	兼務	4			4
認定こども園	本務	21 ※ ⁹		1 ※ ¹⁰	22
	兼務	4		6 ※ ¹²	10
小計	本務	179	28	59	266
	兼務	346	12	18	376
合計		525	40	77	642

※¹ 事務嘱託職員 1 名を含む。

※² 特任教員・特命教員 35 名を含む。

※³ 教務嘱託職員、スポーツ振興専門員、コーディネーター 計 16 名を含む。

※⁴ 専門職嘱託職員、事務嘱託職員 9 名を含む。

※⁵ 養護教諭（専任）1 名及び契約教員 6 名を含む。

※⁶ 契約教員 8 名を含む。

※⁷ 教務嘱託職員 1 名。

※⁸ 事務嘱託職員 1 名を含む。

※⁹ 嘱託保育教諭 14 名を含む。

※¹⁰ 管理栄養士 1 名。

※¹¹ 教務職員とは大学は副手・助手、中学校高等学校では実習助手及び教務嘱託職員を指す。

※¹² 調理員 3 名及びシルバーパート 2 名を含む。

教職員の平均年齢

区分	教育職員	教務職員	事務職員	全体
本務	49.27 歳	39.89 歳	45.95 歳	47.55 歳
兼務	53.76 歳	41.75 歳	44.50 歳	52.93 歳
合計	52.23 歳	40.45 歳	45.61 歳	50.70 歳

11. 所在地一覧

学校法人宮城学院	仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1
宮城学院女子大学	同 上
宮城学院高等学校	同 上
宮城学院中学校	同 上
宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」	同 上



Ⅱ. 事業の概要

1. 学院全体に関わる事業

(1) キリスト教に基づく教育

キリスト教教育をこども園・中学校・高等学校・大学・大学院までの教育の根本に据えて、全学院的にその充実に取り組みました。本学院の教育の礎である礼拝は、2023年5月から新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、感染症予防対策を取りつつ、教職員礼拝を含む各部門において従来どおり対面による礼拝が守られました。学生生徒については、キリスト教学の講義、聖書科の授業はもとより、様々なキリスト教活動として、キリスト教教育週間時の特別プログラム、YWCA、大学聖歌隊、大学・中学校高等学校ハンドベルクワイア、ハートフルボランティアなどの活動を展開しました。また、教職員を対象として創立記念講演会、キリスト教講座等を開催しました。その他、「第2回クリスマスを祝う音楽会」を開催し、福音主義キリスト教に基づく宮城学院の教育の豊かさを社会に向けて発信しました。

(2) 社会貢献

ア 福音主義キリスト教に基づく活動の展開

宗教総主事、大学キリスト教学担当教員2名、中高教員1名による「教派の由来：教会と学校」、「「聖書のみ」とは?」、「戦時下の宮城学院」などのキリスト教と学校教育をテーマとしたキリスト教講座を年6回行いました。

イ 地域社会の課題の解決

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、外部との交流が再開されました。大学においてはイオン環境財団が主催する石巻や亘理の被災地支援としての植樹活動に学生ボランティアが参加したほか、仙台朝市の活性化に向けた取組に参画するなど、地域の復興と被災地支援につながる活動の取組を積極的に行いました。

(3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備

ア キリスト教的価値観の共有

毎月の全学院教職員礼拝、クリスマス礼拝や東日本大震災記念礼拝などの特別礼拝、事務職員全体研修に加え、9月16日には創立記念礼拝のほかキリスト教教育を体現し社会で活躍する本学卒業生 藤沢智子理事を講師とし「私と宮城学院」と題した記念講演を行い、キリスト教的価値観の共有を図りました。また、キリスト教学校教育同盟主催の中学校高等学校中堅教員及び新任教員対象研修会並びに新任事務職員対象研修会に参加しました。

イ 人事

教職員がモチベーションを高く持ち業務を遂行していくことができるよう、人事制度構築について検討を行いました。また、業務効率化に繋がるシステム導入などについて研究を行い、教職員が向上心を持ち本学院の競争力を上げるための、教職員が果たすべき役割について明確にしていくことについて検討を行いました。

ウ 広報

こども園、中学校、高等学校、大学において、それぞれの取組を適時適切に伝えるため、ホームページやSNSを活用して広報を展開したほか、宮城学院広報 ～Glory to God を年2回発行し、約4万人の同窓生に発送しました。

エ 教育研究を支える基盤の計画的整備

施設修繕準備調査の結果から、優先度の高いものについて順次施設修繕に着手しました。2023年度は、防水改修及び外壁改修工事（人文館、実習館、家政館、学生センター、大学図書館）、内壁タイル脱落対策工事（礼拝堂、人文館、ランディス館）、分電盤更新工事、経年劣化による設備等の更新工事のほか、大学研究室冷房化工事を実施しました。

(ア) 施設設備の整備事業

・ 人文館内壁タイル脱落対策工事	61,820,000 円
・ ランデイス館内外壁タイル脱落対策工事	19,800,000 円
・ 礼拝堂内壁タイル脱落対策工事	43,670,000 円
・ 人文館・実習館防水改修及び外壁改修工事及び監理（3 年目）	64,548,000 円
・ 同上に関する追加工事（外壁タイル修繕）	41,800,000 円
・ 家政館防水改修及び外壁改修工事及び監理（3 年目）	44,893,200 円
・ 同上に関する追加工事（外壁 RC 破損箇所修繕）	17,710,000 円
・ 大学図書館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理（1 年目）	13,328,700 円
・ 大学研究室冷房化設計及び工事（人文館）（3 年目）	36,080,000 円
・ 大学研究室冷房化設計及び工事等（講義館・家政館）（2 年目）	236,500,000 円
・ 分電盤更新工事及び監理（1 年目・2 年目）	121,687,500 円
・ その他の事業	13,654,960 円
合 計	715,492,360 円

(イ) 施設設備の整備事業（補助金事業）

・ 講義館耐震工事（第 1 期）及び監理	88,153,042 円
合 計	88,153,042 円

(ウ) 臨時的事業計画

・ 大学 無線 LAN システム更新等	54,473,320 円
・ その他の事業	4,318,850 円
合 計	58,791,370 円

(エ) 臨時的事業計画（補助金事業）

・ 大学 GAKUEN/UNIPA 及び証明書自動発行機システム更新（第 1 期）	53,163,000 円
合 計	53,163,000 円

オ 財政基盤の強化

(ア) 中高財政の健全化

中高財政健全化の柱である新入生確保目標数を達成することができず、生徒総数の減少に歯止めがかからない状況にあります。中高赤字の改善は、本学院の財政にとって重要な課題の一つであることから、引き続き、中高財政の健全化を目指し、宮城学院中高の伝統と魅力について生徒募集に繋がるよう的確な広報を展開し、生徒確保に努めることが喫緊の課題となります。

(イ) 寄付金の獲得

オリーブリーフ募金として、多彩な寄付メニュー（①学生・生徒の奨学基金、②教育・研究振興支援、③施設・設備充実支援、④学生・生徒課外活動支援等）を用意して募金事業を展開しました。本学院の役員、教職員、同窓生、保護者など、多くの皆様のご賛同を得て、2023 年度の募金総額は 6,786,414 円となりました。

(ウ) 資産運用の推進

2023 年度資金運用計画において、目標利回りを 1.0%に設定して資金運用を行ったところ、確定利回りは 1.1%となりました。2023 年度は、年度当初に日銀総裁の交代、年度末にはマイナス金利政策解除が行われ、今後金利が上昇していくことが見込まれる中、国債の購入をしづらい環境となり、償還債権の再投資先を得ることができませんでした。

(4) 同窓会との連携

同窓会においては2023年5月に新同窓会長が就任し、新同窓会役員との意見交換などを行いました。また、9月に開催された同窓会設立130周年記念礼拝・音楽会等について参加するなど、同窓会との連携に努めました。

(5) その他

ア 危機管理体制の充実

自然災害、感染症、その他有事を想定した危機管理体制の充実を図り、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い危機管理マニュアル（健康危機管理編）の改正を行いました。また、新型コロナウイルス等の危機管理対策としてガイドラインを随時更新し、情報発信を行いました。2014年度から実施してきた全学生・生徒・園児、全教職員参加による「全学院総合防災訓練」を引き続き実施し、通常の訓練のほか、VRによる地震災害の疑似体験により災害の備えや対応方法等について学ぶ防災研修を実施しました。

イ 奨学金の充実

2023年度奨学金等の事業実施状況は以下のとおりです。

○宮城学院女子大学授業料減免（高等教育の修学支援新制度）

大学 368名 計 213,452,200円

○宮城学院高等学校入学金減免

高校 1名 計 25,000円

○宮城学院学業特待奨学金（プールボー奨学金）（給付）

大学 6名 高校 14名 中学 6名 計 11,659,700円

○宮城学院奨学会奨学金（給付及び事前予約型給付）

大学 1名 計 600,000円

○宮城学院女子大学奨学金（給付）

大学 13名 計 3,500,000円

○宮城学院同窓会奨学金（給付）

大学 5名 高校 2名 中学 2名 計 1,700,000円

ウ 管理運営体制の強化

（ア）法人の経営・運営体制等の改善

私立学校法改正に伴い、2025年4月に寄附行為改正を行うために検討を行いました。今回の改正による寄附行為の大きな変更点として、新たに理事選任機関を設置すること、監事の選解任が評議員会の決議によること、理事と評議員の兼職禁止などがあり、法改正に漏れなく対応するために文部科学省、私立大学連盟等の説明会を中心に情報収集を行った上で検討を行いました。また、これらに加えて内部統制システムの整備が求められていることから、平行して検討を行いました。

（イ）監査体制の強化

内部監査では、監査項目として業務監査並びに会計監査を設け、業務監査では共通項目、部署固有項目を設定し、学院内規程を含めたコンプライアンスへの取組の適切性と業務運営の合理性及び効率性を中心に検証を行いました。監事監査は、上半期・下半期の現金預金有価証券の監査、予算案・決算案等の監査を実施するとともに、教学監査として大学部門及び中学校・高等学校部門の地域との関わり方に関する取組状況について確認監査を行うとともに、2022年度及び2023年度の公的研究費不正防止履行状況について確認しました。公認会計士監査は年7回（延べ11日）、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査を行い、常任理事会構成員と監事との合同懇談会を行うなど、監査充実に向けて取り組みました。

(ウ) 職員の人材育成

職員の職務遂行能力及び資質向上を目的とし、新入職員対象に入職時研修からフォローアップ研修まで年間を通じた新任職員研修、管理職対象に考課者研修等を実施するなど、階層別並びに目的別に研修を行いました。また、時間を有効に活用し自己研鑽の機会を設けるためにオンデマンド研修を導入し、各職員のキャリア及びスキルに応じた知識の習得やレベルの向上を目指した職員の人材育成に努めました。また、事務職員全体研修のテーマを『宮城学院の職員として守るべきこと、変えるべきこと』として実施し、第一部は佐々木哲夫理事長・学院長に「私立・キリスト教・大学（学校）を想う」と題しての講演、第二部は、宮城学院女子大学の渡部順一教授に「デジタル時代の新潮流－AI と人間の共創－」と題した講演を行い、急速に変化していく社会における本学職員としての業務遂行に必要な考え方について学び、情報の正しい理解とスキルアップの向上を目指しました。

2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

本学が建学の精神、大学の理念・目的に根差しつつ、激動する社会的要請に応える教学を提供し続けるために、2022 年度発足の大学改革検討委員会の議論を踏まえ、第二次大学改革検討委員会を発足させました。第二次大学改革検討委員会では短期間に議論を取りまとめ、2025 年度に一部の学科の定員変更（付け替え）を行った上で、2026 年度には届出による学科の設置を目指すことを決定しました。大学では 2023 年度の入学者が定員に満たなかったことを受け、学校推薦型選抜入試の要件緩和等を行い、オープンキャンパスの回数を増やし、一般入試（A 日程）の合格者にメッセージを送り、オープンキャンパスに来たこともない一般入試合格者を対象に大学説明会を開催して大学の魅力・特色を訴えるなど、様々な施策によって入学者の増加を期待しましたが、残念ながら 2024 年度入試では大幅な定員割れとなりました。大学は学院全体の維持・存続のため、本学を取り巻く状況を分析するとともに、安定的な学生確保を目指して、2026 年度の学科改組にとどまらず、更なる改革に向けて取組を加速していくこととしました。また、昨今女子校・女子大の存在意義が問われている中、外部評価委員会でのご意見に示唆を受け、本学が女性の自立とエンパワーメントを支援することを本務とする教育機関であることを内外にアピールし、タグライン「愛のある知性を。」を具現化するものとして、2025 年度に女性学を柱とするジェンダー教育研究センター（仮称）を設置することとし、そのための設置準備委員会を 2024 年度に立ち上げることにしました。

大学の教員配置では一号特任教員の専任教員への登用制度を廃止し、専任教員は原則公募で行うことを確認しました。さらに財政状況を鑑みて、大学として柔軟かつ自律的な教員配置を可能にするために、専任・一号特任・二号特任等、採用区分ごとにおおよその人件費と対応させた教員人事ポイント制を導入し、全学的な中期人事計画を立案しました。また、教員制度については 2022 年度に大学設置基準が改正されており、本学も今後学科改組等大学改革を推進していくために、基幹教員制度の導入を決めました。

(1) 大学におけるキリスト教教育諸活動

建学の精神の実質化を目指し、キリスト教主義学校の社会的責任を果たすため、以下の活動を展開しました。

ア 教育活動全般

「キリスト教学」（1 年次必修）、「キリスト教と現代社会」（3 年次必修）、「キリスト教教育論」（教育学部 1 年次以降必修）においては、聖書の要点を伝え、自己受容と共生社会の実現の重要性を強調する講義を提供しました。SDG s や生命倫理のことなど、様々な取組の実例を学生に紹介しています。

イ キリスト教教育活動

対面礼拝を週 3 回行い（前期 39 回、後期 33 回）、対面礼拝の出席者数は 1 回につき前期は平均 74 名、後期は 64 名、計 71 名になりました。

6 月 13 日のキリスト教教育特別集会は、講師として NGO ノット・フォー・セール・ジャパン 代表の山岡万里子氏をお招きし、日本を含めて現代の世界でも横行している人身取引の実態、被害者に対する支援活動の内容等について詳しく話して頂きました。学生・教員の出席者数は約 770 名でした。

クリスマス礼拝（112 名出席）には、東北学院大学文学部教授の川島堅二牧師により、「救い主の誕生」と題してクリスマスの喜びについて説教して頂きました。大学ハンドベルクワイア 6 名による前奏、音楽科合唱履修生 32 名による賛美演奏も行いました。

3 月 15 日の卒業・修了礼拝では、仙台北教会牧師の近藤誠牧師に「あなたがたは地の塩、世の光である」と題して説教をして頂きました。音楽科学生によるサキソフォンの賛美演奏も行いました。

さくら寮では、入寮式に加えて 6 月 28 日と 9 月 27 日の夕拝、12 月 16 日のクリスマス礼拝で説教奉仕を行いました。

音楽科オルガン・ピアノ専攻 4 年生を対象とした奏楽者ガイダンスは、4 月に開催しました。礼拝と奏楽の意味を説明し理解と協力を求めました。

法人主催のキリスト教講座には宗教センターも積極的に協力し、前期 3 回、後期 3 回の計 6 回の講座を行いました。

2021 年 6 月から始まった広報紙「MGU チャペルレター」の配信を 2023 年度も継続し、月 1 回発行しています。

イベント・礼拝における講演・説教を収録した『あかり』第 17 号（4000 部）を 3 月に刊行し、卒業生や新入生に配布しました。

このほか、法人所属のサークルである YWCA、ハンドベルクワイア、聖歌隊に協力し、聖歌隊の定期演奏会、ハンドベルクワイアの学外イベント・教会礼拝での演奏（3 回）、YWCA の自主講座（2 回）等の活動を支援しました。

（2）教育・研究活動の充実

図書館及び学科に配分された予算による図書購入は、おおむね適切に処理され、有効に学生や教員の利用に供しています。ただし、研究費購入の図書の検収方法について、現状を改善し、図書資産が増加するように検収方法を工夫する余地が残されています。

中間所蔵庫の設置が完了したことで、収蔵能力が拡大し、収蔵能力超過状態からの改善に向けて取り組むことができました。また、図書のカード登録の未遡及図書の管理については、該当資料を所持している教職員、部署の協力もあり、無事遡及作業が完了しました。

学内研究費については、当初予算よりも削減されたものの、コロナウイルスによる制限も撤廃されたことから、想定以上の研究成果を出すことができました。また、配分と執行についても、適切性の検証を行いました。

大学附属の 4 研究所についても、コロナウイルスによる制限が撤廃されたことにより、前年度以上に研究会・講演会、紀要発行などが活発に行われ、研究成果も出しました。

外部資金に関する情報提供（研究倫理教育を含む）についても、担当部局から教職員に向けて適切に行いました。さらに、科研費申請率向上のために、外部支援サービス（URA）を導入しサポート体制を充実させました。

また、公的研究費による研究活動に関わる不正行為防止のため、啓発活動やコンプライアンス教育充実することで不正行為防止対策を行いました。

（3）教育内容の充実に向けて

ア 教育の質の向上に向けた取組

学部・学科の教育目的が達成されるように、教育の質の向上に取り組みました。

- (ア) カリキュラム改定を行った学科においては、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ及びルーブリック評価を機能させた教育内容の改善が進みました。今後は、全学科におけるアセスメントを実行し、それに基づく教育内容の改善を課題とします。
- (イ) 全学科において、開講科目についての検証を行いました。途上の学科もあり、開講内容や開講数の適否については 2024 年度のカリキュラム改定に向けての課題となりました。
- (ウ) ティーチングポートフォリオの運用方法を改め、教員ポートフォリオと授業アセスメントに分けて実施しました

イ 学修成果の可視化に向けた取組

教育の目標と評価との関連性を明確にして、学生が学修成果を評価・改善することができるように、以下の取組を行いました。

- (ア) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の達成度を把握するためのアンケート調査及びルーブリック評価を導入しました。
- (イ) 演習や実習等のレポート・課題・実技等を評価方法とする科目については、ルーブリック評価を導入しました。

ウ 学習支援体制の整備

- (ア) 2024 年度からの学習支援事業開始に向けた環境整備を行いました。

エ 高大接続事業の推進

- (ア) 連携協定校に加え、出前講座を通じて連携の拡充を実現しましたが、学校単位での取組に至っていない部分もあり、2024 年度の課題として対応していきます。
- (イ) 入学前教育については、各学科において、教育内容や学習方法の改善を行い、学習時間の確保と学習者の自己評価の向上を可能にしました。

オ 副専攻制度の充実

- (ア) 全てのプログラムについて検証を行い、必要に応じて内容を改善しました。また、登録学生数の増加のため、学生ニーズの把握やプログラムの評価が課題になることを確認しました。

(4) 学生支援の充実

学生の自主的学修やアクティブ・ラーニング、そして教職課程の教育実践の質向上を行うため、以下の内容に取り組みました。

ア 学修支援について

- (ア) 2023 年度入学生から BYOD 化を実施し、各教室での授業において積極的な活用を進めるとともに、学科図書室や自習室等における主体的な学修やアクティブ・ラーニングの展開に向けた整備を進めました。
- (イ) 学生の自学自習に資する次期授業支援システムの 2024 年度稼働に向けた導入作業が進行中です。

イ 教職課程支援について

- (ア) 再課程認定にかかる付帯事項を確実に履行するとともに、中教審答申や審議会の指摘、教職課程認定基準等の改正に対応して、教職課程の改善と充実を実施しました。
- (イ) 教員免許状更新制度にかわる卒業生へのリカレント事業について検討を進めました。
- (ウ) 仙台市教育委員会や市内各学校との連携による学習支援事業を実施し、教職課程の履修者及び希望者に対して教育現場体験の機会を提供し意識の向上を図り、教育実習へ円滑な接続を可能にするとともに、教員採用試験合格者（採用名簿登録者）に対するインターンシップとして赴任前の研修の機会を提供しました。
- (エ) 教職関連科目における模擬授業等の演習を通じて ICT 能力の育成を図り、教育実習で ICT

を活用した授業を実施し、教育職員免許法等改正の趣旨を反映した教員養成を実現しました。

ウ 学生生活支援について

(ア) 自主活動・課外活動支援

2023 年度は 5 月からの新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行に伴い、以降 4 年ぶりに大学全体の運営が全面的に対面で行われ、学生の自主活動や課外活動の支援についてもコロナ禍以前と同様の形で行うことができました。その中で、前期には学友会春季総会と新入生歓迎会、後期には学友会秋季総会そして卒業パーティーも対面が無事開催することができました。特に卒業パーティーは 300 名を上回る参加者を集め、盛大に開催することができました。

大学祭においては、4 年ぶりの通常開催となり、学生有志団体による飲食の提供も解禁することで大きな成果を収めることができました。

サークル・同好会の活動においては、日々の課外活動も平常時に戻し、本学 HP での活動報告も活発に行われるようになりました。また、新たに、サークル団体のみならず新入生にも勧誘活動についての意識調査を実施し、それらの結果分析をサークル部長及び課外活動支援関係者で共有し、2024 年度以降の部員募集の PR について具体的な改善策を検討しました。

(イ) 経済的支援の充実

「高等教育の修学支援新制度」と学内奨学金のどちらかの支援を少しでも多くの学生が受けられるよう調整する試みを行いました。具体的には、国の修学支援が受けられない学生に対して、本学独自の奨学金が受けられるようにするために、一部の学内奨学金の募集案内期間を国の支援制度の受付が全て終了した後に設定するなど、支援を受けられない学生が取り残されないような取組を行いました。

また、学外奨学金情報についても、ホームページ上の奨学金情報ページをリニューアルするなど、経済的に困窮する学生及び保護者に対して有益な情報を提供することに努めました。

(ウ) 学生相談・特別支援の充実

学生相談室、特別支援室ともに開室時間をコロナ禍前に戻し、多様な悩みに応えられるようにしました。合理的配慮の申請については、特別支援室が中心となり学生の要望を丁寧に受け止め、学科等との連絡・調整を行いました。また、学生相談室が中心となり学生のような悩みや不安を解消できるよう、ホームページでの資料配信や学生に対応する教職員向けの研修会を企画実施しました。障害の有無に関わらず、学生が自分らしく学び、自分らしく働ける職場を見つけれられるよう、内外関連部署・機関と連携を取りながら修学や就労支援の充実を図りました。

(エ) 学生寮の管理運営及び寮生活のサポート

寮生の活動については、新型コロナが 5 類に移行したことから、礼拝や新入寮生歓迎会など、コロナ禍以前に行われていた行事の多くを再開することができ、行事への参加を通じて、寮生同士のコミュニケーションの醸成が図られ、本来のあるべき集団生活の姿に戻りつつある様子がうかがえました。毎年実施している寮生アンケートにおいては、全ての設問項目において、昨年度より改善が見られ、寮生自身も寮生活に満足している結果となりました。一方、改善を望む率直な意見も寄せられたことから、2024 年度も引き続き必要な検討を行い、寮生、寮職員、大学が連携・協力しながら、改善に努めます。

エ キャリア（就職）支援について

(ア) キャリア教育の充実

女性のキャリア形成支援の観点から、生き方、働き方の自己決定を視野に入れ、多様化する現代社会を生き抜く力を養うために必要なキャリア教育を推進しました。本学のキャリア

教育の特色とも言える「キャリアアップセミナー」は、航空、文学、食品製造、環境、行政、地方創生、美容、宿泊、家庭教育支援と多様なジャンルからゲストをお迎えし、特別編を含めて9回行いました。「就職先」という観点だけでなく、女性として生きる上で現実的に直面する人生の課題について、自分事として考える機会となりました。それぞれ300名～740名の学生が参加し、終了後のアンケートでは、参加者の9割以上が「参考になった」と回答しました。

そして昨年度再開された「OG との集いカフェ」は2023年度も対面にて、6月末に「一般企業編」、9月に「公務員編」の2回実施しました。普段のセミナーとは異なり、少人数でOGと直接話ができる機会として好評ですが、6月は株主総会時期と重なり、OGへの依頼に苦慮しました。

(イ) 就職支援を含む多様な進路決定のための支援

多様な学生が在籍する現在、2023年度も就職希望の学生を「誰一人取り残さない」をモットーに、様々な就職支援を行いました。例年、未決定の学生の中には、キャリア支援課との連絡が取れない場合もあることから、前期の早い段階から把握し、キャリア支援課職員が各学科教員と連携して継続的に連絡を取り、個々の状況に応じて丁寧に対応するよう心掛けました。また、キャリア支援課職員が学科・専攻の担当を決め、丁寧に学生に寄り添う支援を行っているものの、時間的・人力的に対応できない場面もあることから、TeamsやUNIPAなどのシステムも活用し、学生の声に耳を傾け、ニーズに対応するよう工夫しました。そのようなきめ細やかな支援を心掛けた結果、2024年4月1日時点の就職率は98.2%であり、2022年度の96.4%、コロナ前の2019年度95.7%を上回りました。

(ウ) 留学生の就職支援

留学生に対しては、主に対面やチャットによる個別相談を通じてコミュニケーションを取りつつ、国際交流センターや学科担当教員、教務課などから必要な情報を収集して支援を続けました。文化や社会背景、価値観の違いなども理解しながら支援をすることは容易ではありませんが、留学生の特性に応じた就職先を紹介しながら、学生の意思を尊重して支援しました。

(エ) OG 支援

エンロールメント・マネジメントを意識したOGへのキャリア支援を充実させました。卒業生とのつながりを強化するために、卒業式当日にキャリア支援の卒業後の支援について説明し、全員にリーフレットを配布しました。そして2023年3月から2023年5月には、OGにも役立つオンデマンド動画を開放したところ、複数の卒業生の視聴がありました。OGは特に対面での受講が難しいことから、ホームページ内のOG向け情報の充実やメールでの支援を行いました。同時に、本学卒業生が就職した企業等にも2023年1月～7月にアンケートを送付し、本学卒業生への評価を把握しました。その結果、社会人として求められる要素であるコミュニケーション能力や協調性などが本学卒業生においても評価されている一方で、行動力や判断力に課題があることが分かりました。

(オ) キャリア支援に関する情報の積極的発信

2021年度より整備してきたホームページの「キャリア支援」のサイトは、頻繁に更新し、学生にキャリア支援の情報を確認するよう促してまいりました。また、実施したセミナーや講座の情報はすぐにホームページに掲載し、常に新しい情報を閲覧できるよう心がけました。そして外部への情報発信として、企業やOGだけでなく、保護者に対し、本学のキャリア支援について理解いただくよう、大学後援会総会（5月）や地区後援会（8～9月）、保護者のための就職支援セミナー（11月）などでも紹介し、ともに学生支援を行える環境づくりに努めました。

(5) 学生募集

ア 志願者確保に向けた対応

(ア) 総合型選抜・学校推薦型選抜での志願者確保

全国的な傾向として、年内入試志向が顕著になっています。この傾向は、本学においても例外ではありません。2023年度は、特に指定校制の推薦基準を大幅に見直しました。さらに、総合型選抜についても、より受験生にとって、受験しやすい受験制度と内容について検討を進めました。

定員を満たさない学科については、一般選抜C日程(欠員補充入試)を実施しました。一般選抜の志願者は減少傾向にあるとはいえ、ある程度の受験者は見込めることから、歩留まりをあげるよう努力しました。

(イ) 積極的な入試広報の展開

主として総合型選抜・学校推薦型選抜の志願者数を増やすために、早い段階で高校訪問を行うとともにオープンキャンパスのより一層の充実化を図りました。2023年度は、オープンキャンパスの回数を1回増やし、「合格者のための見学会」を開催するなど、受験生に本学の魅力を伝える機会を増やすことに努めました。

イ 多様な学生の受入れ

学校推薦型選抜の対象となっているキリスト教主義学校で学んだ生徒をより積極的に受け入れることとし、同推薦制度の周知を図りました。また、専門学校や短大から本学への3年次編入を目指す学生確保のため、編入学の指定校推薦制度の検討に着手しました。あわせて、外国人留学生、社会人のための特別入試などを強化するために、入試制度の見直しを行うなど、改善点を見つけて受験生にとって受験しやすいものになるよう検討しました。

ウ 入試制度の円滑な運営

2023年度の出題において、複数教科において出題ミスが生じました。そのため、出題採点会議におけるチェック体制を強化し、今後の入試科目についての見直しを進めました。2025年度入試は、新学習要領に準じた出題にしていく必要があります。そのための体制と主題内容についての確認を進めました。

(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む)

連携事業を行っている各団体とは、定期的な協議の場を設けることで新たなニーズの発掘と課題を発見し、実践的な活動を展開することに取り組みました。連携協定先である仙台村田製作所とは、社員の体力測定会を実施し、健康教育専攻の学生たちが計測及び運動指導を行うなど実践的な教育の機会に加え、測定データを提供していただきました。また、同社との連携事業においては、学生の研究活動を推進することに加え、同社従業員の健康増進にも貢献することができました。このほか、連携協定の締結には至っていないものの、宮城県味噌醤油工業協同組合の協力により、「仙台みそ」を使った「仙台芋煮」を教育学科幼児教育専攻が実施したスウェーデン実習で振る舞い、地元仙台の食文化を通じた国際交流事業を実践することができました。

学生の自主活動やボランティア活動をサポートするリエゾン・アクション・センター (MG-LAC) では、日本財団ボランティアセンターと連携して、豪雨災害のあった秋田県において学生がボランティア活動を実施したほか、各種ボランティア活動に対する支援を行い、地域に貢献できる人材の育成にも取り組むことができました。

(7) 国際交流

2023年度は、派遣留学事業として海外提携校である北アリゾナ州立大学1名(後期)、ウィニペグ大学3名(前期1名・後期2名)、忠南大学3名(前期1名・後期2名)の合計7名の学生を派遣しました。また、国際交流委員が弘光科技大学(台湾・台中市)を視察し、現在は10校ある本学の海外連携校の更なる拡大にも取り組みました。

本学の魅力ある国際交流事業を広報する活動として6月14日には留学相談会を開催しました。留学経験者の学生も交えて海外提携校への留学制度などについて紹介し盛況のうちに終了しました。

留学に必要な語学力の向上に向け、6月17日、11月4日にはTOEFL ITPを実施しました。それぞれ10名、12名の受験者がありました。コロナ禍以前の半数程度の受験者数にとどまるものの、海外留学への意欲が高い学生数は回復の傾向にあります。

(8) 生涯学習

2023年度は生涯学習講座を通年にわたって開講し、コロナ禍前に近いスタイルでの講座展開を行い、年間で約350名の方々に受講していただくことができました。

また、宮城県からの受託事業である「みやぎ県民大学」では、現代ビジネス学科教員とIT企業、県内で活躍している女性起業家によるコラボレーション体制で実施し、身近なDX対応への取組などを県民の皆様にご紹介することができました。

(9) 大学院

ア 人文科学研究科

入学者確保について、2023年度入試から導入した社会人対象の入試制度を広く告知しました。また、オンライン相談を継続し、出願時期にあわせ大学ホームページ上で案内しました。さらに、従来第1回入試前のみを実施していた対面による入試相談会の回数を2回に増やし、第2回入試前にも実施しました。

10月7日に第26回人文学会研究発表大会を開催し、2年生3名の修論中間発表にあたる研究発表並びに1年生4名の研究計画報告を行いました。同大会終了後に引き続き人文科学研究科FD研修会を実施し、学部教育との接続・内部進学者について、社会人の進学志望者に向けた対応について、大学院の修学環境・修了後の進路について、教育体制と教員補充について、現代ビジネス学科の大学院への参入について、それぞれ検討し、着手可能なところから進めていくこととしました。

11月27日に大学院生を対象とした人文科学研究科研究倫理研修会を実施し、1年生4名が受講しました。また1・2年生全員が研究倫理eラーニングコースを受講し、修了証明書を提出しました。加えて、継続的な研究倫理教育の一環として、日本学術振興会発行の研究倫理ハンドブックPDFを1・2年生全員に配布し、継続的な学習を奨励しました。

修了予定者を対象に、「学修成果の把握に関するアンケート」(DP達成度にかかわる調査)、「大学院における学びに関するアンケート」を2024年3月に実施し、学修成果把握のための材料を得ました。

イ 健康栄養学研究科

修士論文指導教員の人員補充では、学部の専任教員が兼ねているため、大学の財務情勢などを踏まえ、分野ごとの教員配置の適正化と中長期的な人事について継続的に検討しました。

本研究科独自のFD(Faculty Development)活動では、教員・大学院生及び大学院進学を目指す学内外の学部生等を対象に実施し、参加者間の研究教育内容や姿勢を理解する情報共有の機会と質の向上を図りました。

大学院の入学者確保に向けた広報活動では、学外の学部学生と社会人にはホームページにオンライン相談を掲載し、学内学部学生には研究科合同による大学院説明会(年2回)やUNIPA配信、大学院修了生や現大学院生を講師に講演会を開催するなど、随時、受験生確保のための広報活動と相談を行いました。2024年度は1名が大学院に入学しましたが、2023年度2回目に実施した2024年度大学院入試においては合格者を得ることができませんでした。在籍者数は長期履修者を含め5名となりました。

「臨床栄養学分野の管理栄養士のための高度専門力育成プログラム（BP）※」では、継続した受講生確保のための広報活動と現職者が受講しやすい環境を整えることができ、受講者2名が課程を修了しました。2024年度は継続して1名が受講します。

修士論文作成では丁寧な研究指導を行い、学内外において研究成果を発表しました。

大学院生の本研究科修了時の進路指導及び支援は、キャリア支援課や本研究科所属教員間で連携して継続的に行いました。

※BP=Brush up Program for professional（職業実践力育成プログラム）：社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的とし、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な課程を文部科学大臣が認定して奨励する仕組み

(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携

大学後援会の活動については、4月4日入学式終了後に新入学生の保護者の皆様を会員としてお迎えする「大学後援会入会式」を執り行い、5月27日には本学の礼拝堂を会場として「大学後援会総会」を開催しました。さらに、宮城県以外の東北4県を会場にした「地区後援会」を開催しました。そのほか、保護者の皆様へ本学の教育方針や学生に対する日々の教育諸活動など、学生が日々過ごしている学内の様子を知っていただくために「宮城学院女子大学後援会会報（vol. 11）」を発行しました。

大学後援会総会では、総会開催前に本学院の礼拝堂において「音楽科によるミニコンサート」を開催し、本学オルガニスト・研究生・学生による演奏が行われ、多くの会員の方にご出席いただきました。総会においては、2022年度の事業報告及び2023年度の事業計画などの審議を行い、承認を得ました。その後、本学における学生生活やキャリア支援に関する報告、学長賞受賞者による成果発表を行いました。

さらに会場を変えて各学科単位でのクラス担任を交えた懇談の場を設けました。そのほか、キャリア支援課においては、担当職員による就職等に関する個別相談の場を設けました。

地区後援会では、保護者の皆様の関心が高い就職状況やキャリア支援に関する事例報告、実際の就職活動を経験した在学生を招き、就職活動体験談の発表、個別に学業成績などの教務事項及び学生生活に関する事項など就職以外の事項についても懇談を行いました。

3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項

(1) 教育計画全般

ア 中学校高等学校では、建学の精神を堅持し、スクールモットーである「神を畏れ、隣人を愛する」の下に、女性に備わった資質、能力を見だしその特性を豊かに育む教育を実践しました。

イ 建学の精神をより具体化したスクールポリシーの下、教育を実践しました。広報活動では本校の教育内容を丁寧に説明し、アドミッションポリシーを明示して受験生を募集しました。また本校の教育活動の特徴である英語教育、音楽教育、国際型探究教育に力を入れたカリキュラムを実践しました。中学校高等学校ともに英語に特化したコースを設け、流暢さと正確さを大切に英語力育成に努めました。音楽教育においてはキリスト教音楽を中心としたカリキュラムを組み、弦楽器を授業に取り入れるなど特色ある教育を実践しました。また、各教科指導において世界的な視点で問題を発見し、その課題を解決に向けて、生徒が共に考えることができる取組を行いました。生徒会活動、学校行事を通じてリーダーシップとフォロワーシップを学び、主体性と協働性を養いました。

ウ 全教員が学内外の研究会に参加し研修を継続的に行いました。2023年度から研修を全体研修と個人研修に分けて取り組み、全体研修では「建学の精神研修会」「コミュニケーションスキルアップ研修会」「ICT教育研修会」「インクルーシブ教育研修会」を行いました。また、個人

研修では各教員が担任として教科担当者として等自由に研修テーマを決め、年間研修計画を立て取り組みました。

エ PTA、地域住民、初等中等教育関係者、有識者による学校関係者評価委員会を設け外部評価を行いました。生徒保護者からのアンケートを基に改善すべき点を教員会議で共有し改善に努めました。

(2) キリスト教教育活動

キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切にしました。宗教諸行事についてはコロナ禍により講堂礼拝を取りやめ、教室での礼拝に切り替えることもありましたが、おおむねコロナ禍以前の形で実施することができました。キリスト教教育週間全日行事や3.11 追悼礼拝等の特別礼拝も全て従来どおりの形で実施することができました。特にクリスマス礼拝は、来場者を生徒・保護者、教職員と学校関係者に限りましたが、賛美とオーケストラを含む全てのプログラムを2019年度までと同様の形に戻して礼拝を献げることができました。このことは参加した全ての人たちにとって大きな喜びとなりました。

YWCAの取組も、保育所と児童館への等の外部施設への訪問、街頭募金なども全て従来どおり実施することができました。対面での体験を通じて学ぶ機会を得た生徒たちは大きく成長しました。札幌市にある北星学園女子中高を拠点として開催された北海道・東北地区カンファレンスに高校生4名が参加し、平和をテーマとして各校と学びの共有や交流の時間を持つことができました。文化祭やクリスマスを祝う音楽会において、クラフトコーナーを開設し、売上金をAARJapan（難民を助ける会）や能登半島地震の義援金として寄附しました。

(3) 学習指導

ア 生徒が自ら学ぶ姿勢を大切に全教科で授業を実践しました。知識と技能の習得はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力を育むため、生徒が主体的に授業に関わり、対話により答えを導き出す工夫をしました。探究型授業を実践することにより生徒の深い学びにつながりました。

イ 生徒の学力向上のため、放課後学習支援室（スタディモール）を充実させ、生徒が自ら学習に向かう姿勢を持てるよう指導しました。また、担任教員による面談を定期的に行い、学習に積極的に取り組むことができるよう指導しました。

ウ 全生徒がBYAD（Bring Your Assigned Device：指定されたデバイスを購入し使用する）によるタブレットPCを所有しており、全ての授業で授業支援アプリケーション（Google Classroom）を活用しました。選抜コース、特別進学コースについては、個別学習指導体制（オンライン個別学習システム及び個別基礎基本学習）を取り指導しました。学校内のほぼ全域でWi-Fi環境が整っており、どこの場所からもネットワークに接続することが可能で、双方向通信技術を活用し、教室に入ることができず保健室で過ごす生徒や、登校できない生徒も自宅で授業に参加することができました。

エ 各コースにおいて面談を重ね、早期に進路目標を立てる指導を行いました。コース毎生徒の学力向上のために個別指導をできる限り行いました。また、学校推薦型選抜及び総合型選抜による進学実績向上のため全教員で小論文指導及び面接対策指導に当たりました。総合進学コースにおいてはアクティブ講座（コミュニケーションスキルアップ講座、マナー講座など年間7回講座）を設け生徒の意識付けを行いました。また大学キャリア支援課の協力により、大学主催の「キャリアアップセミナー」に生徒を参加させる取組を行いました。

オ 英語の授業では中学校、高等学校ともにオンライン英語プログラムを導入し、4技能（読む、書く、聞く、話す）を大切に英語力が身に付くよう指導をしました。中学校においては、これに加えて英語入試で入学した生徒（E-Jr.）に対して、英語を母国語としない国の児童生徒に向けに開発された教科書を用いたネイティブ教員による英会話の授業（週あたり4時間）と

日本人教員による文部科学省検定済教科書を利用した授業（週あたり 3 時間）を展開しました。これにより GTEC で平均 873 点を取得し、3 名が B1（CEFR）レベルに到達できました。一般入試による入学生も中学 3 年生で 634 点（全国平均 579 点）を取得し、A2 レベルに 16 名が到達することができました。また、高等学校の英語に特化したカリキュラムを持つ GC（グローバル・コミュニケーション）コースにおいては、高い英語運用能力を身に付けるため、ネイティブ教員を中心に、プレゼンテーション、ディベート、アカデミックライティングなどの授業について実践しました。これらにより、全体の英語力が向上（CEFR, B1 レベル: 特別進学コース 5 名、総合進学コース 3 名、グローバルコミュニケーションコース 3 名）し、海外大学への進学者 1 名のほか、国内で一定以上の英語力を必要とする大学（5 名）などへ合格実績を上げました。

カ 音楽の授業では、キリスト教音楽を中心に授業を実践しました。特に 4 年ぶりに讃美のあるクリスマス礼拝を復活すべく、夏の時期から感染防止対策に努め、各学年のクリスマスキャロル、メサイア「ハレルヤコーラス」の練習に取り組みました。全校生徒が思いを一つにすることができるこの讃美は、本校が大切にしている目には見えない力であり、心の教育につながっています。クリスマス礼拝にはハンドベルクワイア、聖歌隊、オーケストラも役割を担っており、クリスマス礼拝は本校の音楽教育の要となります。

そのほか、日本歌曲のみならずイタリア歌曲やドイツ歌曲にも取り組み、音楽の多様性について理解しながら様々な音楽文化にも親しみました。楽典や音楽史も同時に学ぶことにより、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えました。これにより生徒たちは、①どのような音楽表現がふさわしいかについて意識できるようになり、②作曲者の思いや楽曲に対する意図を感じ取ることができるようになった、③音楽の良さや美しさを味わうことができるようになった、などの学びを得ました。

弦楽の授業では、中学校 3 年生全員と、高校 1 年生、2 年生の選択生がヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの 3 つの楽器から 1 つを選択し、1 年間学習を継続したことでより確かな演奏技法と豊かな音楽性を身に付けました。

キ 宮城学院女子大学との高大連携を進めました。宮城学院女子大学の各学科により提供される講義前期 5 講座（現代社会とビジネス、生活文化デザイン入門、英語学と英語圏の文学・文化、人間文化学入門、高校生のための心理学入門）後期 3 講座（自然科学入門、日本語再発見、作曲入門）に高校生が定期的に参加しました。またオープンキャンパスや PTA 行事に大学の教員に参加していただくなどの交流をもち、宮城学院女子大学の魅力を発信しました。

ク 大学入学共通テストについて、各教科において研究を進めました。また、各コースにおいて模擬試験の結果から生徒の学力を分析しました。その結果を授業に反映するなど生徒の学力向上に努めました。また、中学校では「全国学力推移調査」を実施し、生徒の学力を分析して、有効な指導を行いました。

（４）海外研修・国際交流

2023 年度もオーストラリア、ニュージーランドへのターム留学を実施しました。オーストラリア（7 月～9 月）は高校生 5 名が参加し、アデレード市の公立高校 5 校に分かれ、ホームステイしながら授業に参加しました。ニュージーランド（1～3 月）は中学生 6 名を含む 12 名が参加し 5 都市 12 校に分かれて現地の高校の授業に参加しました。参加した生徒は諸活動に積極的に参加し、今後の語学学習に対する意欲をさらに高めて帰国しました。11 月には提携校であるカナダの PCS（Pacific Christian School）から 30 名の生徒を受け入れました。仙台での活動は 5 日間だけでしたが、ホストを引き受けた生徒の学習意欲の向上につながりました。また、これまで短期留学の交流を続けてきたオーストラリアアデレード市の Westminster 校より、2023 年度の受け入れ不可の連絡が 6 月にあり、Gold Coast の語学学校 Tyler International へと変更して実施しました。

5 日間の研修でしたが、意欲的な学習につながりました。このほか、1 年間の留学も貴重な経験となり、深い学びにつながりました。〔2023 年度中に帰国した生徒 2 名（オーストラリア、アメリカ）、出国した生徒 3 名（ドイツ、オーストラリア、カナダ）〕

（5）生徒会指導、生活指導

ア 生徒会指導

生徒会活動は生徒の自主性を重んじ、主体性を育成する教育活動の場として位置付けています。多様性を尊重し、他者と協働して学び続けることができる集団作りを行い、毎週行われる委員会活動や多くの行事を通じて、責任と義務を全うするリーダーシップを育ててきました。これらは自らの力で問題に取り組み、解決する知性を育み、思考力、判断力、表現力を養う場として大切にしていることです。2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことで、運動会や文化祭、合唱コンクール、スポーツ大会など全ての生徒会行事でコロナ禍以前のものと同様の内容で実施することができたことは、生徒にとって大きな学びとなりました。特に、各行事を通じて協力することの大切さや、一つのことを皆で作り上げる喜びと達成感を得ることができたこと、各学年や他学年との交流を通じて、宮城学院生としての意識を高め合うことができたことは大きな収穫となりました。また、高等学校では生徒会の働きかけにより、校内での携帯電話の利用やスクールソックスの代替品の着用について、ルールの変更を行いました。これからも、現行のルールを守っていくことを大切にし、生徒が主体的に変えてきたルールについて見直しを図りながら、より魅力のある学校生活を歩んでいけるように指導して行きます。

イ 生活指導

学校生活アンケートについて、教員がより短い間隔で生徒の心身の状態を把握できるように、例年 2 回のアンケートを 3 回に増やして実施しました。特に生徒たちの人間関係の悩み、いじめの項目に焦点をおき、アンケート結果から速やかに面談の機会を持ち、生徒が心身共に健やかに充実した学校生活を送れるように、各担任のみならず全教員で対応しました。中学校のアンケート結果については、「学校に来るのが楽しい」「授業がよく分かる」と意識している生徒は 9 割近くおり、「今の自分が好きだ」「私にはいろいろな良いところがある」など自己を肯定する意識が高い生徒が 7 割近くいることは、良い結果でした。また、中高 6 ヶ年の女子生徒の成長過程に合わせて、各学年において健康教育講演会を実施しました。さらに、スマートフォン、インターネットを巡るトラブルを避けるため、ネットパトロールを実施するとともに安全に使用するための講習会を行い、生徒自身のスマートフォン利用に関する注意を喚起することに努めました。

（6）進路指導

コースそれぞれの進学実績を向上させるために、各コース主事が授業担当者と情報共有を行い、生徒一人一人に合った進学指導を行いました。特に、特別進学コースと選抜コースでは、12 月 1 日（月）に外部講師を招き、生徒一人一人の学力の伸張を確認して、共通テストまでの授業、その先の二次試験の指導につなげました。二次対策では、出願大学毎に受験対策の個別指導を実施し、受験生の国公立大学二次対策や私立大学受験支援を行いました。また、3 年生の受験に向けた小論文指導を全教職員で分担してより専門性の高い指導に変えるなど、宮城学院女子大学を中心とした指定校推薦入試や総合型選抜による進学指導を丁寧に行いました。

その結果、総合型、学校推薦型、一般のどの選抜でも例年よりも第一志望での合格率が高くなりました。特に例年 8 名程度であった国公立大学の合格者が 14 名に増加しました。

「進路の日」などの進路行事を通して、生徒のモチベーションが高まる進学指導が行えるように改善を重ね、今後も生徒一人一人の進学を応援していきます。

※2023 年度進学状況、卒業生 103 名

(宮城学院女子大学 28 名、国公立大 14 名、県内私大 23 名、その他私大 21 名、短大 1 名、専門学校 6 名、その他 10 名)

(7) 入試広報

入試広報部による、組織的な入試広報活動を展開しました。公式 SNS アカウントを積極的に更新し、生徒の学校生活の様子を配信しました。また、ホームページを活用した情報公開に努め、更新回数を増やしました。

2023 年度オープンキャンパスは中学校 2 回 (7 月、9 月)、高等学校 2 回 (7 月、10 月) 行い、学校紹介や体験授業のほか、部活動体験会を行い本校の魅力を伝えました。また、学校説明会も 7 月、10 月のほか、土曜日には個別相談会を開催して多くの小中学生とその保護者に本校の魅力を伝える機会を設けました。

学外団体主催の学校説明会に参加し、通塾する受験生に対する広報活動を積極的行いました。また、市内の各中学校を訪問し、宮城学院高等学校への関心と理解を高めるよう努めました。あわせて部活動推薦の対象となる生徒に直接学校説明会を実施して多くの受験生を獲得する結果となりました。中学校の英語入試受験生を増やすために、小学生を対象とした「チャレンジ・イングリッシュ」を本年度も実施しました。

(8) スクールバス

スクールバスは 3 路線 (北東部方面、古川方面、愛子方面) を運行していますが、経費を見直し 2024 年度より料金改定を行うこととしました。今後は運行経路、運行形態を含めて更に検討していきます。

(9) その他

地域の自治会、公立小・中学校との信頼関係を大切にするとともに、留学生との交流などを推進し、地域から愛される学校として、地域の人々との交流、協力関係を深める努力を続けました。引き続き、新しいブランドイメージにつながるよう努力していきます。

4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項

(1) 0～5 歳児の保育

参観・コイノニア (クラス懇談会) や運動会、クリスマス礼拝などの内容や実施時期、会場、参加人数等を検討し、保護者の皆様にはその趣旨をご理解いただけるよう丁寧に説明して多くの行事をコロナ禍以前に戻して実施しました。教職員に大きな異動がなく前年度からの保育が継続できましたが、更に子どもたちの遊び、経験、学びが積み重なる連続性のある保育展開を実施すべく事前にしっかりと内容と目標を確認し、実施後には改善点を共有しました。また教職員一人一人が研鑽を積むと同時に、園内研修や会議を通じて本園が目指す保育の共有にも努めましたが、人的・時間的制約もあり計画どおりにならないこともあり、この点の改善が大きな課題です。

学外の演奏家をお招きしてのコンサートのほか、中高の弦楽班によるコンサート、修了式では音楽科の卒業生 (音楽リエゾンセンター所属) に演奏していただき素晴らしい式を終えることができました。また、保護者、来賓の皆様もとても喜び感動してくださいました。こども園の良き伝統として今後も継続していきます。

(2) 食育

これまでの食育・栽培活動を継続、発展させる形で、子どもたちが 2023 年度も食育活動に取り組みました。栽培した野菜やお米は、給食やおやつでの提供、各クラスでのクッキングに用いて有効に活用しました。田んぼ・畑ともに栽培活動に関わってくださる方々との交流も大切にしました。中でも 5 歳児恒例となった園庭の田んぼでの稲作は、粳まきから米作りを経験し、収穫、脱穀、炊飯全ての経験ができ 5 歳児の遠足はくりこま高原ファームに出かけ大きな田んぼや収穫

したお米の加工やトラクターや農耕機を見せてもらうなど、普段なかなかできない深い学びとなる経験をさせていただきました。

また、日々忙しそうに送迎なさる保護者の方々が、少しホッとする時間を作っていただきたいとの思いから、送迎時間に合わせてドリンクスタンドを設け一息ついてもらう取組をしました。とても好評だったことから、無理なく今後も継続できるようにしていきます。コロナ禍が終息したことにより、食事のスタイルも戻すことができたことで、食事の場は子どもたちにとっても大切なコミュニケーションの場であることを再認識することができました。

(3) 子育て支援（どんぐりくらぶ・子育て講座・子育て相談・にこにこ Day・子育てサロン・森のカフェ）

子育て中の保護者が安心して相談できる場所、心身共にリフレッシュの場所となるよう、多岐にわたる支援・活動を継続実施しました。特に 2023 年度は対面での活動を基本とし、保護者のニーズに合わせた企画内容の検討に努め、季節に合った取組や学内外から講師にいらしていただき講座を実施しました。

新入園児の多くが「どんぐりくらぶ」から入園することもあり、子どもたちにとって魅力ある遊びの提供ができるよう環境を活かした保育を展開しました。そうした活動を通じて、保護者の方には園の教育方針や遊びの理解を深めていただけたことになったことから、今後も継続するように努めます。

(4) 児童クラブ「森の家」：小学 1 年～4 年 22 人（桜丘・川平・上杉山通・長命ヶ丘 小学校 4 校の利用）

4 年生をリーダーに「森の家」での生活や遊び、約束など児童同士で話し合いながら主体的な生活を行ないました。また利用児童全員が卒園児であるため、森のこども園での遊びや生活等の保育・教育内容を理解・継続できるように在園児との交流も意識して行うことができました。長期休業中には、大学の先生方にいらしていただき専門分野での特別講座を開催しとても刺激を受けることができました。児童にも保護者にも大変好評だったため、2024 年度も内容を検討し更に充実させて継続していきたいと思います。

(5) その他

園庭開放や園の説明会を実施し家庭との連携や園の広報につなげました。また、園児募集に向けて近隣の商店などにパンフレットや募集要項の配布のご協力をいただきました。少子化が進むことから、今後とも協力いただけるように働きかけていきます。

5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項

(1) 教育

教育活動全般的には、コロナ禍以前とほぼ同様に近い形で活動できました。4 月始業時から、学校での対面レッスンを基本に開始しましたが、年間を通じて幼稚園や小中学校でコロナ及びコロナ以外の感染症の流行も多かったため、それに伴う補講や遠隔レッスンの活用も多くなりました。ただし、様々な授業形態を活用することで、継続して教育活動を行うことができました。

教育コースの小学生ソルフェージュの授業については、グループレッスンを継続して行うことができ、異学年の生徒と一緒に各レベルに応じた内容で合奏を実施でき、他者の演奏や取組を見聴きすることによりそれぞれに大きな学びがありました。また、クリスマスを祝う音楽会での音楽科学生たちの「くるみ割り人形」の演奏も教師や保護者と共に聴く機会を持てたことや、その後の授業で展開できたことにより、教室内での授業では得られない貴重な学びの機会となりました。演奏を聴くということの教育的な重要性も再認識しました。

テストについては、ほぼ全てについて（ソルフェージュ・楽典・ピアノエチュード・声楽）、コロナ禍以前と同様に開催し、また欠席者についての追試験も必要な場面で実施でき、教育的効果を得られました。

一般コースは音楽科卒業生の入室により、教室から音楽科へそしてまた教室へと、そして外部会場での演奏の機会を提供することもでき、継続した学びを支援することができました。

指揮コース及びワンレッスン受講は、コース変更後2年目を迎え、当初から受講の対象として念頭に置いていた現役教師の入室や受講の機会を得られ、生徒の必要に応じた授業内容を提供でき、かつ、即時的に教育現場への還元ができました。

（2）行事

ア 発表会

2023年度は、専攻の別なく教室生が一堂に会して行うことができました。関係者以外の観客にも開催の声がけをし、コロナ禍以前同様の開催ができました。遠隔レッスンが多かった時期を経ても継続していた生徒については、確実に成長していることが分かる機会でした。参加した関係者の方々からも、様々な専攻の生徒の演奏を聴けて良い機会だったと感想を頂きました。生徒の発表の場は、演奏の成長を促す機会になることを改めて実感し、発表へ消極的になりがちな生徒たちへ、小さな失敗を恐れず挑戦することの大事さを説きながらよりスムーズな促しができるように担当教師へのサポートも必要と感じました。

イ クリスマスコンサート

ショッピングモールタピオ（仙台市泉区）でのクリスマスコンサートは、教師と一般コース生による演奏で開催しました。2023年度から加わった新専攻ユーフォニアムの演奏もあり、沢山の聴衆が聴いてくださいました。

（3）広報

大学オープンキャンパスでの実技クリニックなどでの広報により、音楽科受験希望の生徒が入室し、その後音楽科への進学につながりました（2名）。

東北六県の楽器店や音楽教室への案内送付の広報も、問い合わせが増え、教室の存在の周知ができ、遠方からの入室につながりました。

2022年度に実施した生涯学習センターとの連携での指揮法講座の参加から入室につながりました。

6. キリスト教センターに関する事項

キリスト教センターでは、以下のとおり事業を実施しました。

- （1）全学院の年度聖句「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」（フィリピの信徒への手紙2章13節）の学内掲示及び刊行物への掲載を行いました。
- （2）全学院教職員礼拝（原則毎月第3水曜日16:30～17:00）の定期礼拝（4/26、5/24、6/21、7/12、10/18、11/22、2/14）のほか、特別礼拝として、創立記念礼拝（9/16）、新年礼拝（1/4）、東日本大震災追悼記念礼拝（3/11）を行いました。
- （3）クリスマス事業としてクリスマス・チャペルコンサート（12/9）、公開クリスマス礼拝（12/19）を行いました。そのほか、クリスマス・キャンパス装飾（11/6～1/5）、クリスマス・イルミネーション点灯式（11/13）、宮城学院クリスマスカードの製作、大学宗教センターと併せてクリスマス献金（11/20～12/20）を実施しました。
- （4）キリスト教講座は6回（5/12、5/26、6/16、10/31、11/28、2/9）開催しました。
- （5）ハートフルボランティア・サポート事業として、団体の募集、審査を行い、大学2グループ、中高3グループに助成金を交付し、ボランティア活動を支援しました。また、活動報告会は開催

せず、報告書を刊行しました。

- (6) 学院内外の担当者が一堂に会する礼拝説教者奏楽者懇談会（3/22）を開催しました。
- (7) 刊行物として、宮城学院教職員礼拝説教集『GLORY TO GOD』（86号、87号、88号）、『礼拝ガイド 2024』、『ハートフルボランティア報告書 2023』を作成し、教職員や関係機関に寄贈・送付しました。
- (8) 大学YWCAは、公開クリスマス礼拝及び大学クリスマス礼拝でのキャンドルサービス・献金奉仕、自主講座を実施しました。
- (9) 大学ハンドベルクワイアは、日本ハンドベル連盟東北フェスティバル、山形学院高等学校とのハンドベルクワイア交流会に参加しました。感染防止に配慮して学内活動を行い、大学クリスマス礼拝にて演奏をしました。
- (10) 大学聖歌隊は、感染防止に配慮した学内活動を行い、第5回定期演奏会（10/14）、ミニコンサート（12/9）を開催しました。公開クリスマスではキャンドルサービスや賛美演奏の奉仕をしました。

7. 資料室に関する事項

- (1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開

- ア 資料の整理・保管

- ・「ハンセン資料」のマイクロフィルム 60 巻のうち NO. 48, 49 をデータ化しました。

- イ 資料の調査・研究

- ・宮城女学校第7回卒業生に関する資料調査・収集を行いました。
2023年10月18日（水）東北学院史資料センター、東一番丁教会にて調査。

- ウ 情報の提供・公開

- ・レファレンス 12 件
- ・資料提供（学外）1 件

提供先：昭和館 図書情報部情報検索係 安井香織

内容：昭和館制作オーラルヒストリー（証言映像）「少女たちの見た仙台空襲」に宮城学院中学校の卒業生が出演（昭和24年入学、東京在住者2名）。当時の学校の様子がわかる写真の提供。

- (2) その他

- ・創立記念行事で中学2年生に「宮城学院の歴史」について講演を行いました。
2023年9月8日（金）14:10～15:10
- ・大学の授業科目である「リベラルアーツ基礎D（MG史）」への授業協力を行いました。
- ・Glory to God vol.170 へ寄稿しました。
「宮城女学校の戦時期学籍簿の検討ー成績表と学科目の推移ー」
- ・『資料室年報第29号』を刊行しました。

目次

- | | |
|---|-------|
| 1. 巻頭言 理念の継承 ドイツ改革派教会と宮城学院 | 佐々木哲夫 |
| 2. 2023年度宮城学院創立記念講演 私と宮城学院 | 藤沢 智子 |
| 3. 宮城学院女子大学における「自校史教育」の実践
ーコロナ禍での出発ー | 小羽田誠治 |
| 4. 三浦綾子の死生観とキリスト教信仰 | 松本 周 |
| 5. 宮城女学校第7回生の夫たち
ー顔写真特定と目歯比率ー | 佐藤 亜紀 |
| 6. 宮城女学校の戦時期学籍簿の検討（2）
ー成績表と学科目の推移ー | 佐藤 亜紀 |

7. 宮城学院の植物たち その4—ツリバナ—

栗原 健
木村 春美

Ⅲ. 財務の概要

2023 年度は、学生生徒園児総数目標 4,041 名に対し、実績 3,689 名となりました。施設設備整備事業として分電盤更新（第 1 期・第 2 期）、大学講義館・人文館・家政館研究室冷房化工事、人文館・実習館・家政館の防水改修及び外壁改修工事(第 3 期)、人文館・ランディス館・礼拝堂内壁タイル脱落対策工事、講義館耐震工事(第 1 期)等を実施しました。臨時的事業計画として大学無線 LAN システム更新、GAKUEN／UNIPA 及び証明書自動発行機更新（第 1 期）等を実施しました。

2023 年度法人全体として、教育活動収支差額は 98,673 千円、教育活動外収支差額は 66,401 千円、経常収支差額は 165,074 千円となりました。以下、本年度決算の概要について報告します。

1. 事業活動収支計算書

当該会計年度の収支を経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分けて、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

(1) 教育活動収支

教育活動収入計は、昨年比 320,096 千円減の 4,754,241 千円となりました。教育活動支出計は、昨年比 107,650 千円減の 4,655,568 千円となりました。教育活動支出の主なものとして、人件費は昨年比 124,316 千円減の 2,615,260 千円、教育研究経費は昨年比 48,044 千円増の 1,786,233 千円、管理経費は昨年比 26,808 千円減の 252,539 千円となりました。

教育活動収入計から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は、昨年比 212,447 千円減の 98,673 千円となりました。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で昨年比 3,423 千円減の 66,689 千円となっています。教育活動外支出計は全て借入金等利息で 288 千円です。

以上により、教育活動外収支差額は、昨年比 3,361 千円減の 66,401 千円となっています。

(3) 特別収支

特別収入計は、昨年比 40,248 千円増の 51,075 千円となりました。これは、その他の特別収入の内、施設設備補助金として大学の私大研究設備整備費補助金が採択となったことによる 44,043 千円が主なものです。

特別支出計は、14,936 千円となりました。これは、図書除却による資産処分差額が主なものです。

以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は 36,139 千円となっています。

(4) 基本金組入額

基本金は、全体で 1,200,887 千円を組入れました。第 1 号基本金は、主に固定資産取得等によるもので 1,358,968 千円を組入れました。第 2 号基本金は、大学研究室冷房設備設置資金 150,000 千円等を取崩し、第 3 号基本金は、奨学基金 10,000 千円、教育基金 1,450 千円を組入れました。

(5) 当年度収支差額及び翌年度繰越収支差額

当年度収支差額は△999,674 千円となり、翌年度繰越収支差額は△2,615,271 千円となっています。

2. 資金収支計算書

当該会計年度に行う諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

(1) 2023 年度の資金収入は、前年度繰越支払資金 2,485,509 千円を含めた資金収入全体が 8,620,430 千円となり、前年度と比べて 632,700 千円増となりました。翌年度繰越支払資金は、2,180,873 千円

となり、前年度と比較し 304,636 千円減となりました。

- (2) 収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入は事業活動収支計算書の収入と同じです。新入生数に係る納付金等の前受金収入は、昨年比 25,810 千円減の 603,467 千円となりました。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入等が含まれています。
- (3) 支出の部では、人件費支出には退職金支出 127,589 千円が含まれています。借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め 112,840 千円となっています。施設関係支出は 1,128,856 千円で、前年度と比べ 861,551 千円増となりました。設備関係支出は前年度比 20,197 千円増の 79,085 千円となりました。資産運用支出は、減価償却引当資産等に 571,809 千円を繰入れました。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを目的としています。

- (1) 資産の部は、合計 24,522,712 千円となり、前年度末 24,715,182 千円から 192,470 千円減となりました。有形固定資産は前年度末 10,523,802 千円から 702,964 千円増の 11,226,765 千円、特定資産は前年度末 11,054,120 千円から 525,093 千円減の 10,529,027 千円、その他の固定資産は前年度末 382,685 千円から 12,178 千円減の 370,507 千円となりました。なお、流動資産は前年度末 2,754,576 千円から 358,163 千円減の 2,396,413 千円となっています。
- (2) 負債の部は、固定負債の長期借入金が 448,640 千円、流動負債の短期借入金が 112,840 千円等により負債の部合計は、前年度末 3,230,893 千円より 393,683 千円減の 2,837,210 千円となりました。
- (3) 純資産の部の基本金は、全体で 24,300,773 千円となり、前年度末比で第 1 号基本金は 1,358,968 千円増、第 2 号基本金は 169,531 千円減、第 3 号基本金は 11,450 千円の増です。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、△2,615,271 千円となりました。
- (4) 資産の部合計 24,522,712 千円から負債の部合計 2,837,210 千円を差し引いた純資産の部合計は 21,685,502 千円となり、純資産構成比率(旧会計基準：自己資金構成比率)は前年度より上昇し 88.4%となりました。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、40.3%(前年度 41.7%)となりました。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産／要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率ですが、87.1%となっています。

過去 5 年間の推移及び構成比率

1. 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

科 目		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,885,319	3,916,804	3,861,157	3,819,556	3,661,990
	手数料	60,360	52,143	50,196	49,469	45,325
	寄付金	45,324	71,621	78,387	96,671	41,215
	経常費等補助金	675,760	896,506	849,157	909,096	895,187
	付随事業収入	15,678	13,282	14,108	8,591	5,486
	雑収入	131,453	195,967	267,127	190,954	105,038
	教育活動収入計	4,813,894	5,146,323	5,120,132	5,074,337	4,754,241
	事業活動支出の部					
	人件費	2,804,149	2,881,484	2,951,512	2,739,576	2,615,260
	教育研究経費	1,523,577	1,539,914	1,793,438	1,738,189	1,786,233
	管理経費	329,636	315,005	290,110	279,347	252,539
	徴収不能額等	3,802	3,920	9,473	6,105	1,536
	教育活動支出計	4,661,164	4,740,323	5,044,533	4,763,218	4,655,568
	教育活動収支差額	152,731	406,001	75,599	311,120	98,673
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	99,995	100,132	95,808	70,112	66,689
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	99,995	100,132	95,808	70,112	66,689
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	686	534	432	351	288
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	686	534	432	351	288
	教育活動外収支差額	99,309	99,598	95,377	69,762	66,401
経常収支差額		252,040	505,599	170,976	380,881	165,074
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	10	0	0	0	0
	その他の特別収入	12,303	18,068	8,733	10,827	51,075
	特別収入計	12,313	18,068	8,733	10,827	51,075
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	10,300	10,499	195,306	70,519	14,912
	その他の特別支出	86,197	87,683	1,472	2,318	24
	特別支出計	96,497	98,182	196,778	72,837	14,936
	特別収支差額	△ 84,184	△ 80,115	△ 188,045	△ 62,009	36,139
基本金組入前当年度収支差額		167,856	425,484	△ 17,068	318,872	201,213
基本金組入額合計		△ 172,315	△ 221,071	△ 194,800	△ 212,496	△ 1,200,888

当年度収支差額	△ 4,460	204,413	△ 211,868	106,376	△ 999,675
前年度繰越収支差額	△1,710,057	△1,714,517	△1,510,104	△1,721,972	△1,615,596
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△1,714,517	△1,510,104	△1,721,972	△1,615,596	△2,615,271

(参考)

事業活動収入計	4,926,202	5,264,523	5,224,674	5,155,277	4,872,005
事業活動支出計	4,758,348	4,839,039	5,241,742	4,836,405	4,670,792

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	人件費比率	57.1%	54.9%	56.6%	53.3%	54.2%
2	人件費依存率	72.2%	73.6%	76.4%	71.7%	71.4%
3	教育研究経費比率	31.0%	29.4%	34.4%	33.8%	37.1%
4	管理経費比率	6.7%	6.0%	5.6%	5.4%	5.2%
5	借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	事業活動収支差額比率	3.4%	8.1%	-0.3%	6.2%	4.1%
7	基本金組入後収支比率	100.1%	95.9%	104.2%	97.8%	127.2%
8	学生生徒等納付金比率	79.1%	74.7%	74.0%	74.2%	76.0%
9	寄付金比率	1.0%	1.5%	1.6%	2.0%	0.9%
10	経常寄付金比率	0.9%	1.4%	1.5%	1.9%	0.9%
11	補助金比率	13.8%	17.2%	16.3%	17.7%	19.3%
12	経常補助金比率	13.8%	17.1%	16.3%	17.7%	18.6%
13	基本金組入率	3.5%	4.2%	3.7%	4.1%	24.6%
14	減価償却額比率	9.0%	8.8%	8.0%	8.4%	9.1%
15	経常収支差額比率	5.1%	9.6%	3.3%	7.4%	3.4%
16	教育活動収支差額比率	3.2%	7.9%	1.5%	6.1%	2.1%

2. 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

収入の部	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学生生徒等納付金収入	3,885,319	3,916,804	3,861,157	3,819,556	3,661,990
手数料収入	60,360	51,912	50,196	49,469	45,325
寄付金収入	42,698	68,228	74,785	93,724	38,500
補助金収入	682,047	905,942	851,812	913,991	939,230
資産売却収入	127	0	70,010	0	0
付随事業・収益事業収入	48,072	45,946	46,681	40,702	33,189
受取利息・配当金収入	99,995	100,132	95,469	70,112	66,689
雑収入	130,084	198,906	266,121	189,943	106,477
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	716,159	652,856	678,052	629,277	603,467
その他の収入	779,239	673,918	1,157,203	805,914	1,423,623
資金収入調整勘定	△ 864,006	△ 902,443	△ 928,952	△ 883,013	△ 783,569
前年度繰越支払資金	1,530,417	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509
収入の部合計	7,110,511	7,412,450	8,069,670	7,987,730	8,620,430

支出の部	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
人件費支出	2,835,458	2,895,260	3,012,744	2,767,838	2,629,290
教育研究経費支出	1,130,957	1,145,686	1,399,961	1,349,727	1,379,980
管理経費支出	295,322	283,076	268,567	260,332	228,096
借入金等利息支出	686	534	432	351	288
借入金等返済支出	144,840	132,840	132,840	112,840	112,840
施設関係支出	90,359	127,878	196,866	267,305	1,128,856
設備関係支出	137,282	63,645	102,463	58,888	79,085
資産運用支出	677,115	799,885	775,153	743,509	571,809
その他の支出	319,083	326,119	310,999	505,848	661,645
資金支出調整勘定	△ 220,840	△ 209,609	△ 388,410	△ 564,417	△ 352,332
翌年度繰越支払資金	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873
支出の部合計	7,110,511	7,412,450	8,069,670	7,987,730	8,620,430

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	4,840,842	5,174,372	5,147,190	5,101,668	4,778,062
教育活動資金支出計	4,261,541	4,322,340	4,679,800	4,375,578	4,237,342
差引	579,301	852,032	467,390	726,090	540,720
調整勘定等	126,937	△ 106,098	36,366	△ 33,176	35,539
教育活動資金収支差額	706,238	745,933	503,755	692,914	576,259
施設整備等活動による資金収支					

	施設整備等活動資金収入計	203,976	145,238	353,741	159,289	1,014,077
	施設整備等活動資金支出計	639,796	597,576	743,497	801,960	1,654,241
	差引	△ 435,820	△ 452,339	△ 389,756	△ 642,671	△ 640,164
	調整勘定等	△ 13,840	△ 39,701	76,780	259,604	△ 230,692
	施設整備等活動資金収支差額	△ 449,660	△ 492,040	△ 312,977	△ 383,067	△ 870,856
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	256,578	253,894	190,779	309,847	△ 294,597
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	442,991	530,086	787,613	447,697	319,828
	その他の活動資金支出計	529,738	637,092	567,473	530,089	329,867
	差引	△ 86,747	△ 107,006	220,140	△ 82,392	△ 10,039
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 86,747	△ 107,006	220,140	△ 82,392	△ 10,039
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	169,831	146,888	410,919	227,454	△ 304,636
	前年度繰越支払資金	1,530,417	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509
	翌年度繰越支払資金	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873

（３）財務比率の経年比較

	比率	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	教育活動資金収支差額比率	14.6%	14.4%	9.8%	13.6%	12.1%

3. 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位 千円)

科 目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
固定資産	22,205,974	22,288,810	21,836,596	21,960,606	22,126,299
流動資産	1,890,916	2,109,239	2,598,911	2,754,576	2,396,413
資産の部合計	24,096,890	24,398,050	24,435,508	24,715,182	24,522,712
固定負債	2,197,731	2,136,765	1,992,152	1,845,673	1,713,427
流動負債	1,142,157	1,078,798	1,277,938	1,385,220	1,123,783
負債の部合計	3,339,889	3,215,564	3,270,090	3,230,893	2,837,210
基本金	22,471,519	22,692,590	22,887,390	23,099,886	24,300,773
繰越収支差額	△ 1,714,517	△ 1,510,104	△ 1,721,972	△ 1,615,596	△ 2,615,271
純資産の部合計	20,757,002	21,182,486	21,165,418	21,484,290	21,685,502
負債及び純資産の部合計	24,096,890	24,398,050	24,435,508	24,715,182	24,522,712

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	固定資産構成比率	92.2%	91.4%	89.4%	88.9%	90.2%
2	有形固定資産構成比率	47.2%	45.5%	43.8%	42.6%	45.8%
3	特定資産構成比率	42.7%	43.8%	43.8%	44.7%	42.9%
4	流動資産構成比率	7.8%	8.6%	10.6%	11.1%	9.8%
5	固定負債構成比率	9.1%	8.8%	8.2%	7.5%	7.0%
6	流動負債構成比率	4.7%	4.4%	5.2%	5.6%	4.6%
7	内部留保資産比率	35.9%	38.2%	39.6%	41.7%	40.3%
8	運用資産余裕比率	223.7%	234.0%	222.3%	252.2%	251.0%
9	純資産構成比率	86.1%	86.8%	86.6%	86.9%	88.4%
10	繰越収支差額構成比率	-7.1%	-6.2%	-7.0%	-6.5%	-10.7%
11	固定比率	107.0%	105.2%	103.2%	102.2%	102.0%
12	固定長期適合率	96.7%	95.6%	94.3%	94.1%	94.6%
13	流動比率	165.6%	195.5%	203.4%	198.9%	213.2%
14	総負債比率	13.9%	13.2%	13.4%	13.1%	11.6%
15	負債比率	16.1%	15.2%	15.5%	15.0%	13.1%
16	前受金保有率	237.4%	282.9%	333.0%	395.0%	361.4%
17	退職給与引当特定資産 保有率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
18	基本金比率	106.9%	110.1%	107.6%	107.1%	107.3%
19	減価償却比率	56.9%	58.6%	59.8%	62.0%	61.4%
20	積立率	88.3%	89.4%	93.1%	94.4%	87.1%

4. その他

(1) 有価証券の状況

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	5,596,096,022	5,548,669,200	△47,426,822
時価のない有価証券	2		
有価証券合計	5,596,096,024		

(2) 借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率	返済期限等
日本私立学校振興共済事業団	311,080,000	1.50%	2030 年 9 月 15 日
七十七銀行長命ヶ丘支店	82,000,000	0.11%	2029 年 3 月 20 日
仙台銀行桜ヶ丘支店	45,000,000	0.06%	2029 年 3 月 25 日
三井住友信託銀行仙台支店	107,400,000	0.10%	2028 年 3 月 30 日
三井住友信託銀行仙台支店	16,000,000	0.08%	2025 年 3 月 31 日
合計額	561,480,000		

(3) 学校債の状況

学校債は発行していない。

(4) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

IV. 資料

1. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2023（令和5）年 5月9日（火） （臨時）	1. 上谷刈の土地購入について 2. 中高校舎建替え調査報告について（報告） 3. 寄附行為第28条第1項第4号評議員(学識経験者)の補充について
5月23日（火） （定期）	1. 2022年度事業報告（案）について 2. 2022年度決算（案）について 3. 2022年度資産運用報告について 4. 名誉教授称号の授与について 5. 2023年度入試結果分析について 6. 中高中長期計画の中間総括並びに同計画の一部変更について 7. 理事の競業取引について 8. 校長候補者選考委員会の設置について 9. 寄附行為第8条第1項第9号理事の選任について
7月25日（火） （定期）	1. 寄附行為第28条第1項第1号評議員(教職員)の補充について 2. 私立学校法の改正について
9月19日（火） （臨時）	1. 情報開示請求について
9月26日（火） （定期）	1. 駐車場整備事業について 2. 上谷刈地区開発行為許可申請及び調査設計業務の契約締結について
10月31日（火） （臨時）	1. 講義館耐震改修工事について
11月28日（火） （定期）	1. 2024年度予算編成方針案について 2. 大学改革の検討状況について（中間報告）
2024（令和6）年 1月23日（火） （臨時）	1. 2023年度補正予算（案）について 2. 校長候補者選考委員会からの報告について 3. 大学講堂及び学生センター内壁タイル脱落対策工事について 4. 監事監査意見について（報告） 5. 訴訟について
3月5日（火） （臨時）	1. 学部学科改組について 2. 宗教主事の配置について
3月26日（火） （定期）	1. 2024年度事業計画（案）について 2. 2024年度予算（案）について 3. 事務局長の選任について 4. 常務理事の選任について 5. 宮城学院女子大学学則改定について 6. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について 7. 名誉教授称号の授与について 8. 宮城学院宗教委員会規程の一部改正について 9. 役員に対する補償契約について

	10.役員賠償責任保険契約について
--	-------------------

(2) 常任理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2023（令和5）年 4月11日（火）	1. 中高スタディモールの運営について 2. 2023年度予算における支出削減について（報告）
4月25日（火）	1. 2024年度事務職員採用計画について 2. 宮城学院女子大学第二次大学改革検討委員会規程の制定について 3. 宮城学院女子大学教授会規程の改定について 4. 宮城学院女子大学三役会議規程の改定について 5. 宮城学院女子大学学生寮規程の改定について 6. 2023年度資金運用計画について 7. 2022年度大学経常費補助金の総括について（報告） 8. 2022年度中高運営費補助金の総括について（報告）
5月9日（火）	1. 2022年度事業報告（案）について 2. 無線アクセスポイント入替の契約について 3. 家政館防水改修及び外壁改修工事に関する追加工事の契約について 4. 寄附行為第28条第1項第4号評議員(学識経験者)の補充について
5月16日（火）	1. 2022年度事業報告（案）について 2. 2022年度決算（案）について 3. 2022年度資産運用報告について 4. 2023年度入試結果分析について 5. 中高中長期計画の中間総括並びに同計画の一部変更について 6. 2022年度学長裁量経費に係る決算について（報告）
6月6日（火）	1. 2023年度一時金について 2. 2022年度宮城学院ガバナンス・コード遵守状況について 3. 宮城学院女子大学規程検討委員会規程の制定について 4. 宮城学院女子大学データサイエンス教育推進委員会規程の制定について 5. 宮城学院女子大学研究費規程の改定について 6. 宮城学院女子大学出版助成費の運用に関する内規の改定について 7. 宮城学院女子大学科学研究費補助金事務取扱規程の改定について 8. 宮城学院女子大学期間を定めて任用する教員に関する規程の改定について 9. 宮城学院女子大学社会連携センター規程の改定について 10. 宮城学院女子大学学生寮細則の改定について 11. 宮城学院女子大学附属音楽教室規程の改定について 12. 宮城学院女子大学附属音楽教室室則の改定について 13. 無線LAN機器入替について 14. 2023年度監事監査計画について
6月13日（火）	1. 2024年度大学教員採用計画の申請について 2. 専任事務職員育児休業者の代替職員採用計画について
7月4日（火）	1. こども園嘱託保育教諭の退職について 2. 2023年8月事務局人事について 3. 2024年度再雇用について

7月11日（火）	1. 寄附行為第28条第1項第1号評議員(教職員)の補充について 2. 大学専任教員の退職について 3. 2023年度大学臨時職員（実験・実習系補助員）の採用計画について 4. 2023年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について 5. 2024年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について 6. 私立学校法の改正について
8月1日（火）	1. 中高国語科契約教員（常勤講師）の退職について 2. 中高国語科契約教員（常勤講師）の退職に伴う採用計画について 3. 一般教育部教務嘱託職員の雇用継続について 4. 2023年度こども園嘱託保育教諭の採用について 5. 公益財団法人日本財団ボランティアセンターと宮城学院女子大学学生ボランティア活動推進に関する協定の締結について 6. 2023年度教職員永年勤続者の表彰について
8月21日（月）	1. 2023年度中高契約教員（常勤講師（国語科））の採用について 2. 2024年度専任事務職員の採用について
8月29日（火）	1. 宮城学院宗教委員会規程の一部改正について 2. 2023年度中高契約教員（常勤講師（国語科））の採用について（継続） 3. 公益財団法人日本財団ボランティアセンターと宮城学院女子大学学生ボランティア活動推進に関する協定の締結について（継続） 4. 中高教職員組合への発出文書について 5. 2023（令和5）年度人事院勧告について（報告）
9月12日（火）	1. 駐車場整備事業について 2. みやぎの福祉的就労施設で働く障害者官民応援組織への加入について
9月19日（火）	1. 宮城県最低賃金の改定に伴う学内対応について 2. 上谷刈地区開発行為許可申請及び調査設計業務の契約締結について
10月10日（火）	1. 2023年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について 2. 宮城学院女子大学教務センター規程の改定について 3. 宮城学院女子大学特別研修休暇制度運営委員会規程の改定について 4. 宮城学院中・高等学校研究紀要内規、宮城学院高等学校学業奨学生規程、外国人留学生受入れ規程、父母教師会慶弔規程、父母教師会旅費規程の廃止について 5. 宮城学院中学校高等学校教員採用候補者選考規程の制定について 6. 宮城学院中学校・高等学校選挙管理委員会規程の一部改正について 7. 2024年度大学教員特別研修休暇について 8. 2023（令和5）年度私立学校運営状況現地調査における指摘事項等について 9. 2024（令和6）年度文部科学省概算要求について(報告)
10月24日（火）	1. 2024年度大学一号特任（食品栄養学科）「食品衛生学」担当の採用について 2. 2024年度中高教員採用計画について 3. 講義館耐震改修工事について 4. 大学図書館屋上防水改修及び外壁改修工事の契約について
11月7日（火）	1. 2024年度大学専任教員（教育学科）「算数科教育」担当の採用について

	2. 2024年度大学一号特任（生活文化デザイン学科）「建築設計（インテリア）」担当の採用について 3. 2024年度大学一号特任（一般教育部）「国際交流センター主任（人文科学・社会科学）」担当の採用について 4. 2024年度中高専任教員（国語科）の採用計画について 5. GAKUEN/UNIVERSAL PASSPORT更新及びサーバー機器更新に係る契約について
11月21日（火）	1. 2024年度予算編成方針案について 2. 大学改革の検討状況について（中間報告） 3. 大学教員（一号特任）の退職について 4. 2024年度大学専任教員（一般教育部）「ジェンダー」担当の採用について 5. 2024年度大学専任教員（生活文化デザイン学科）「建築計画」担当の採用について 6. 中高契約教員(特任教員)産前産後休暇取得に伴う契約教員(常勤講師)の任用替えについて 7. 2024年度中高保健体育科産休代替契約教員採用計画について
12月5日（火）	1. 中高専任教員の退職について 2. 専任事務職員の退職について 3. 2024年度大学教員採用計画の申請について 4. 2024年度大学教員採用計画（特命教員）の申請について 5. 中高教員の時間外勤務手当について 6. 2023年度こども園事業計画外の物品購入について 7. 2023（令和5）年度文部科学省補正予算について
12月19日（火）	1. こども園専任教職員の退職について 2. 2024年度大学特命教員（食品栄養学科）の採用について 3. 2024年度事務局嘱託職員等の採用計画について
12月26日（火）	1. 宮城学院情報の公開及び開示に関する規程の一部改正について
2024（令和6）年 1月16日（火）	1. 2023年補正予算（案）について 2. 校長候補者選考委員会からの報告について 3. 大学教員（一号特任）の退職について 4. 2024年度教員人事採用計画（特命教員）について 5. 2024年度中高社会科契約教員（常勤講師）の採用計画について 6. 2024年度こども園採用計画について 7. 2024年度事務局嘱託職員の契約更改について 8. 大学講堂及び学生センター内壁タイル脱落対策工事について 9. 学校法人宮城学院における労働者の過半数代表者選出等に関する規程の一部改正について
2月6日（火）	1. 宗教主事の配置について 2. 2024年度中高専任教員（国語科）の採用について 3. 2024年度中高契約教員（常勤講師（英語科））の採用について 4. 2024年度中高産休代替契約教員（常勤講師（保健体育科））の採用について 5. 2024年度こども園業務限定正教員の採用について

	6. 2024年度こども園嘱託保育教諭の採用について 7. 2024年度こども園嘱託職員（栄養士）の採用について 8. 2024年度こども園嘱託保育教諭等の契約更改について 9. 2024年度教務嘱託職員等の採用計画について 10. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改定について
2月27日（火）	1. 学部学科改組について 2. 2024年度業務限定正教員（大学）の採用について 3. 2024年度大学特命教員（音楽科）の採用について 4. 2024年度こども園嘱託保育教諭の採用について 5. 2024年度専任事務職員の採用について 6. 2024年度中高契約教員の契約更改並びに契約満了の契約教員について 7. 2024年度中高スクールカウンセラー採用計画について 8. 2024年度中学校生活支援コーディネーター採用計画について 9. 大学みつばち共同事業・アドバイザー（顧問）の契約更改について 10. 2024年度中学校高等学校執行体制について
3月5日（火）	1. 2024年度大学一号特任教員（人間文化学科）「美術史」担当の採用について 2. 2024年度大学教員採用計画の申請について 3. 2024年度事務局業務限定正職員（一般）の採用計画について 4. 2024年4月事務局人事について 5. 宮城学院ガバナンス・コードの一部改訂について 6. 駐車場整備工事について 7. 大学講堂・学生センター変圧器更新工事について
3月12日（火）	1. 2024年度事業計画（案）について 2. 2024年度予算（案）について 3. 事務局長の選任について 4. 宮城学院女子大学学則改定について 5. 収容定員変更に伴う宮城学院女子大学学則改定について 6. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について 7. 名誉教授候補者の推薦について 8. ジェンダー教育研究センター（仮称）の設立準備委員会の設置について 9. 2024年度大学入試状況について 10. 大学教員（一号特任教員）の退職について 11. 2024年度中高契約教員（常勤講師（英語科））の採用について 12. 2024年度中高契約教員（常勤講師（数学科））の採用について 13. 2024年度教務嘱託職員の採用について 14. 2024年度事務嘱託職員（キャリア支援課）の採用について 15. 大学昇任人事について 16. 2026年度学科改組に係る大学教員採用計画について 17. 2024年度臨時職員（体育実技授業補助員）の採用計画について 18. 2024年度特任・特命教員の計画更改について 19. 2024年度教務嘱託職員等の契約更改について 20. 2024年度中高スクールカウンセラーの契約更改について

年 月 日	行 事 等
15 日 22 日 24 日 30 日	監事監査 教職員健康相談 全学院教職員礼拝 長谷部弘学長就任式
6 月 6 日 21 日 26 日	公認会計士監査 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
7 月 12 日 24 日	全学院教職員礼拝 教職員健康相談
8 月 10 日～16 日 17 日 28 日	一斉休暇 事務職員全体研修会 教職員健康相談
9 月 16 日 25 日	創立念礼拝・永年勤続者表彰 教職員健康相談
10 月 5 日～6 日 12 日 18 日 23 日 26 日～27 日	教職員健康診断 全学院防災訓練 全学院教職員礼拝 教職員健康相談 公認会計士監査
11 月 13 日 22 日 27 日	クリスマス・イルミネーション点灯式 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
12 月 7～8 日 11 日 19 日 27 日 28 日～1 月 3 日	公認会計士監査 教職員健康相談 宮城学院クリスマス礼拝 仕事納め 冬期休業
2024（令和 6）年 1 月 4 日 22 日	仕事始め 全学院新年礼拝 教職員健康相談
2 月 15 日 26 日	全学院教職員礼拝 教職員健康相談
3 月 11 日 22 日 25 日 28 日～29 日	東日本大震災記念礼拝 退職者辞令交付式 教職員健康相談 公認会計士監査

（2）大学院・大学

年 月 日	行 事 等
2023（令和 5）年 4 月 1 日	さくら寮入寮式

年 月 日	行 事 等
3 日～7 日 4 日 5 日～7 日 8 日 8 日 25 日	健康診断 入学式 新入学生・編入学生・在学生ガイダンス 前期授業開始日 森のこども園入園 学友会春季総会
5 月 23 日 27 日	新入生歓迎会 大学後援会総会
6 月 13 日 25 日	キリスト教教育特別集会 オープンキャンパス
7 月 29 日 30 日	補講 オープンキャンパス
8 月 4 日 5 日～9 日 10 日～9 月 8 日 17 日～26 日 26 日	前期授業終了日 補講 夏季休業 連講 オープンキャンパス
9 月 9 日 16 日 27 日	後期授業開始日 オープンキャンパス 9 月期卒業生学位記授与式
10 月 13 日～16 日 14 日～15 日 21 日 28 日～29 日	大学祭（準備・後片付け含む） オープンキャンパス 大学院第 1 回入試 総合型選抜（Ⅰ期）
11 月 2 日 2 日～9 日 17 日 25 日	総合型選抜（Ⅰ期）合格発表 学校推薦型選拔出願期間 学友会秋季総会 学校推薦型選抜・編入学・TOEIC 編入学・特別入試、転学科試験
12 月 1 日 7 日 16 日 21 日 27 日 28 日～1 月 4 日	学校推薦型選抜・編入学・TOEIC 編入学・特別入試、転学科試験合格発表 クリスマス礼拝 総合型選抜（Ⅱ期） 総合型選抜（Ⅱ期）合格発表 年内授業終了日 冬季休業
2024（令和 6）年 1 月 5 日 13 日～14 日 27 日 24 日～26 日 29 日～2 月 9 日 29 日～	授業開始日 大学入学共通テスト 後期授業終了日 補講 連講 春季休業
2 月 2 日	音楽科専門試験（一般選抜（A 日程）・大学入学共通テスト利用選抜（A 日程））

年 月 日	行 事 等
3 日～4 日 13 日 26 日	一般選抜（A 日程） 一般選抜（A 日程）、大学入学共通テスト利用選抜（A 日程）合格発表 大学院第 2 回入試
3 月 6 日 9 日 15 日 16 日 19 日 21 日 22 日 28 日	一般選抜（B 日程）、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜（B 日程））、特別入試 一般選抜（B 日程）、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜（B 日程））、特別入試合格発表 卒業・修了礼拝、卒業パーティー こども園修了式 学位記授与式 一般選抜（C 日程欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜（C 日程）※音楽科専門試験のみ 一般選抜（C 日程欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜（C 日程）合格発表 オープンキャンパス

（３）中学校高等学校

年 月 日	行 事 等
2023（令和 5）年 4 月 10 日 17 日 22 日	始業式・入学式 イースター礼拝 PTA 総会
5 月 13 日 23 日～29 日 29 日	運動会 キリスト教教育週間 ペンテコステ礼拝
6 月 3 日～5 日 10 日～12 日 14 日	宮城県高校総体 仙台市中学総体 塾対象入試説明会
7 月 1 日 15 日 20 日 20 日～22 日 21 日～8 月 21 日 29 日	中学校学校説明会 中学校オープンキャンパスⅠ 終業 保護者面談 夏休み 高等学校オープンキャンパスⅠ
8 月 22 日	始業
9 月 2 日 9 日 13 日 29 日	文化祭 中学校オープンキャンパスⅡ 創立記念礼拝・講話 前期終業
10 月 2 日 14 日 16 日	後期始業 中学校・高等学校入試説明会 収穫感謝礼拝

年 月 日	行 事 等
17 日 21 日 25 日	芸術鑑賞会 高等学校オープンキャンパスⅡ 宗教改革記念礼拝
11 月 2 日 11 日 18 日	中学校合唱コンクール 中学校・高等学校入試対策講座Ⅰ 中学校・高等学校入試対策講座Ⅱ
12 月 21 日 22 日～1 月 8 日	終業・クリスマス礼拝 冬休み
2024（令和 6）年 1 月 5 日 6 日 9 日 10 日 11 日 20 日 30 日	中学校入学試験 中学校入学試験合格発表 始業 高等学校推薦入学試験 高等学校推薦入学試験合格発表 中学校Ⅱ期入試 高等学校入学試験 A 日程
2 月 1 日 3 日 17 日 29 日	高等学校入学試験 B 日程 高等学校入学試験合格発表 新中 1 オリエンテーション① 高 3 卒業礼拝
3 月 1 日 18 日 19 日 20 日～4 月 7 日 25 日	高等学校卒業証書授与式 中学校卒業証書授与式 終業式 春休み 新中 1 オリエンテーション② 新高 1 オリエンテーション

（４）大学附属認定こども園「森のこども園」

年 月 日	行 事 等
2023（令和 5）年 4 月 7 日 8 日 21 日	第 1 学期始業式 第 8 回入園式 イースター礼拝
5 月 10 日 12 日 17 日 19 日	親子ウォーキング（5 歳児） 親子ウォーキング（4 歳児） 親子ウォーキング（3 歳児） 内科健診
6 月 1 日 3 日 9 日	歯科検診 森の音楽会 花の日礼拝
7 月 6 日 19 日	入園希望者見学日 第 1 学期終業式

年 月 日	行 事 等
20 日～8 月 22 日	1 号認定児夏期休業
22 日～23 日	サマーキャンプ（5 歳児）
8 月 23 日	第 2 学期始業式
9 月 6 日	創立記念礼拝
23 日	森のうんどうかい
27 日	遠足（5 歳児）
29 日	遠足（3・4 歳児）
10 月 2 日	1 号新入園児願書配布・見学会
3 日～4 日	見学会
11 日	第 1 回入園説明会・見学会
13 日	親子ピクニック（0・1・2 歳児）
20 日	内科健診
21 日	第 2 回入園説明会・見学会
26 日	森の音楽会
25 日～27 日	森の芸術祭
11 月 1 日	入園願書受付
7 日	新入園児面接
17 日	収穫感謝礼拝
25 日	新入園児オリエンテーション①
12 月 6 日～7 日	クリスマス祝会
16 日	クリスマス礼拝・第 2 学期終業式
17 日～1 月 8 日	3・4 歳児冬期休業
2024（令和 6）年	
1 月 9 日	第 3 学期始業式
19 日	森の音楽会
2 月 22 日	新入園児オリエンテーション②（1 号）
24 日	新入園児オリエンテーション（2・3 号）
3 月 1 日	おわかれ会
8 日	修了礼拝
16 日	第 8 回修了式
19 日	第 3 学期終業式
20 日～4 月 7 日	1 号認定春期休業

3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金＜日本私立学校振興・共済事業団＞（令和 5 年度）

学校別	区 分	補助事業に要する経費（円）	補助金額（円）
大学	専任教員等給与費	1,051,719,000	133,277,000
	内 ア. 専任教員等給与費	986,254,000	122,357,000
	内 イ. 私立大学退職金財団掛金	65,465,000	1,0920,000
	専任職員等給与費	433,206,000	53,028,000
	内 ア. 専任職員給与費	40,4594,000	4,8781,000
	内 イ. 私立大学退職金財団掛金	28,612,000	4,247,000
	非常勤教員給与費	190,811,000	7,690,000
	教職員福利厚生費	122,937,000	1,9774,000
	教育研究経常費	1,214,750,000	78,899,000
	厚生補導費	29,358,000	2,226,000
	研究旅費	9,883,000	1,215,000
合 計		3,052,664,000	296,109,000

○特別補助（経常費補助金）内訳表

項目	補助金額（円）
I 成長力強化に貢献する質の高い教育	
地方に貢献する大学等への支援	1,800,000
被災地等の復興支援	300,000
授業料減免事業等支援	0
新型コロナウイルス感染症対策支援	0
数理・データサイエンス・AI教育の充実	0
教育研究活動の拡大・展開のための協働支援	0
DXによる教育の質的転換支援	0
II 社会人の組織的な受入れ	0
III 大学等の国際交流の基盤整備	0
IV 大学院等の機能の高度化	0
私立大学等改革総合支援事業	0
合計	2,100,000

○令和 5 事業年度授業料等減免費交付金

事業の内容	交付金額（円）
大学等における修学の支援に関する法律による修学支援	213,335,600

○私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）＜文部科学省＞（令和 5 年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
GAKUEN/UNIPA 更新（GAKUEN 及び Universal Passport 更新に伴うサーバー機器更新）	8,338,000	4,169,000

○私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））＜文部科学省＞（令和５年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
講義館耐震改修工事	79,748,548	39,874,000

○私立学校運営費補助金＜県補助＞（令和５年度）

	内訳				補助対象経費 （円）	補助金額 （円）
	人件費（円）	経費（円）	設備費（円）	計（円）		
高等学校	309,736,386	151,311,487	1,352,000	462,399,873	231,199,937	176,424,688
中学校	139,602,640	57,819,043	481,000	197,902,683	98,951,342	43,098,740
こども園	105,216,070	19,061,065	40,000	124,317,135	62,158,568	1,428,000
合計	554,555,096	228,191,595	1,873,000	784,619,691		220,951,428

○私立学校教育改革推進特別経費補助金＜県補助＞（令和５年度）

区 分 学校別	補 助 対 象 経 費		補助金額（円）
	人件費（円）	経費（円）	
高等学校	309,736,386	151,311,487	1,050,000
中学校	139,602,640	57,819,043	600,000
合計	449,339,026	209,130,530	1,650,000

○仙台市私立学校振興補助金＜市補助＞（令和５年度）

区 分 学校別	補 助 対 象 経 費				補助金額（円）
	図書購入費 （円）	教材教具 購入費 （円）	学校管理用 備品購入費 （円）	計 （円）	
高等学校	810,017	789,280	613,856	2,213,153	2,200,000
中学校	256,012	0	0	256,012	256,000

○子ども・子育て支援制度 教育・保育給付費＜在園児所在市町村補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助金額（円）
こども園の運営に係る補助	14,2028,990

○認定こども園運営費補助金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
こども園の運営に係る補助	1,304,061	1,300,000

○保育士等就労スタートアップ事業補助金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助金額（円）
保育施設等に従事する若手職員の処遇改善に係る補助	432,630

○キャリアアップ研修参加支援助成金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助金額（円）
キャリアアップ研修を受講する保育士等に係る補助	23,000

○仙台市新型コロナウイルス感染症対策補助金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
感染症対策物品の購入に係る補助	145,200	145,000

○私立保育所等助成＜市補助＞（令和５年度）

事業名称	補助金額（円）
栄養士・看護師雇用助成	274,800
増員保育士等助成	3,564,000
特別支援保育助成	1,680,000
増員調理員助成	1,388,400
合計	6,907,200

○病原性大腸菌対策関連消耗品購入及び病原性大腸菌対策検便費助成＜市補助＞（令和５年度）

事業名称	補助対象経費（円）	補助金額（円）
病原性大腸菌対策関連消耗品購入助成	110,500	72,540
病原性大腸菌対策検便費助成		37,000
合計	110,500	109,540

○預かり保育（１号認定）＜市補助＞（令和５年度）

事業名称	補助対象経費（円）	補助金額（円）
預かり保育推進事業補助金	2,150,342	630,000
仙台市一時預かり事業（幼稚園型）補助金		1,104,250
合計	2,150,342	1,734,250

○延長保育事業費補助金（２号認定）＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
延長保育に係る補助	5,889,981	1,896,000

○地域子育て支援事業補助金（広場事業）＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
子育て支援に係る補助	3,415,819	1,500,000

○電気・ガス等価格高騰対策事業補助金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助金額（円）
光熱費等に要した費用に係る補助	960,000

○食材料費補助金＜市補助＞（令和５年度）

事業の内容	補助金額（円）
食材料費に要した費用に係る補助	915,890

○放課後児童健全育成事業補助金＜市補助＞（令和 5 年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
宮城学院児童クラブ「森の家」	3,745,132	1,134,000

○放課後児童支援員等処遇改善事業費補助金＜市補助＞（令和 5 年度）

事業の内容	補助金額（円）
放課後児童支援員等の処遇改善に係る補助	264,000

○結核定期健康診断補助金＜市補助＞（令和 5 年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
大学	結核定期健康診断	955,680	637,120
高等学校	結核定期健康診断	125,840	83,893

○私立高等学校等入学金軽減事業補助金＜県補助＞（令和 5 年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	入学金免除（1 名分）	25,000	25,000

○私立高等学校安全設備整備事業補助金＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	AED リース	62,838	31,000

○学校保健特別対策事業補助金（学校等における感染症対策支援事業）＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	感染症対策消耗品等	450,609	450,000
高等学校	感染症対策備品等	934,993	450,000
中学校	感染症対策消耗品等	201,648	200,000
中学校	感染症対策備品等	484,297	225,000

○私立高等学校生徒支援体制整備事業補助金＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	人件費	896,000	794,000

○私立学校原油価格高騰対策事業補助金＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	燃料費補助	1,701,000	1,701,000
中学校	燃料費補助	682,500	682,500

○研究助成（令和 5 年度）

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額（円）
高等学校	鎌田隆史	科学教育振興助成（中谷医工計測技術振興財団）	300,000

高等学校	鎌田隆史	第8回 COOP トリプルカード みやぎスマイル 基金	300,000
------	------	--------------------------------	---------

○科学研究費助成事業＜文部科学省・日本学術振興会補助＞（令和 5 年度）

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額（円） （直接経費）	補助金額（円） （間接経費）
大 学	市野澤 潤平	基盤研究（B） 継続	950,000	285,000
	遊佐 典昭	挑戦の研究（萌芽） 継続	1,500,000	450,000
	戸野塚 厚子	基盤研究(C) 継続	700,000	210,000
	櫻井 美幸	基盤研究(C) 継続	400,000	120,000
	鈴木 和弘	基盤研究(C) 継続	820,000	246,000
	及川 規	基盤研究(C) 継続	400,000	120,000
	間瀬 幸江	基盤研究(C) 継続	790,000	237,000
	千葉 陽子	若手研究 継続	300,000	90,000
	平川 久美子	若手研究 継続	400,000	120,000
	堀田 智子	若手研究 継続	400,000	120,000
	鈴木 雅之	基盤研究(C) 新規	800,000	240,000
	伊藤 哲章	基盤研究(C) 新規	600,000	180,000
	長谷部 弘	基盤研究(C) 新規	400,000	120,000
	緑川 早苗	基盤研究(C) 新規	700,000	210,000
	高橋 陽一	基盤研究(C) 新規	1,800,000	540,000
	板橋 夏樹	基盤研究(C) 新規	300,000	90,000
	菊地 恵太	若手研究 新規	400,000	120,000
	成田 凌	研究活動スタート支援 新規	1,100,000	330,000
		合計	12,760,000	3,828,000

4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2023 年 5 月 1 日 学校基本調査)

				入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学 院	修 士 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	1	1	1
			日本語・日本文学専攻	4	1	1	1
			人間文化学専攻	4	3	2	2
			生活文化デザイン学専攻	4	0	0	0
		健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	1	1	1
大学院合計				20	6	5	5

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	303	273	106
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	186	176	80
		教育学科児童教育専攻	50	218	185	42
		教育学科健康教育専攻	30	188	65	50
	生活科学部	食品栄養学科	100	261	177	107
		生活文化デザイン学科	60	168	165	70
	学芸学部	日本文学科	100	248	241	107
		英文学科	70	171	164	42
		人間文化学科	70	201	198	34
		心理行動科学科	60	290	119	84
		音楽科	25	18	17	15
大学合計			750	2252	1780	737
3 年次編入学			—	8	7	6

	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高 等 学 校	260	367	356	103
中 学 校	160	46	44	41

※「5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(4 ページ) の 1 年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

5. 寮生数

(2023 年 5 月 1 日現在)

さくら寮	大学 154 名
------	----------

6. 2023 年度就職内定状況

(2024 年 5 月 1 日現在)

学 部	学 科	卒業 学生数 (A)	求職者数 (B)	就職 内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	116	111	109	98.2%
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	90	87	86	98.9%
	教育学科 児童教育専攻	64	62	61	98.4%
	教育学科 健康教育専攻	33	29	29	100.0%
生活科学部	食品栄養学科	106	99	98	99.0%
	生活文化デザイン学科	70	63	62	98.4%
学芸学部	日本文学科	102	86	84	97.7%
	英文学科	72	64	63	98.4%
	人間文化学科	69	61	61	100.0%
	心理行動科学科	66	60	60	100.0%
	音楽科	16	13	13	100.0%
	合計	804	735	726	98.8%